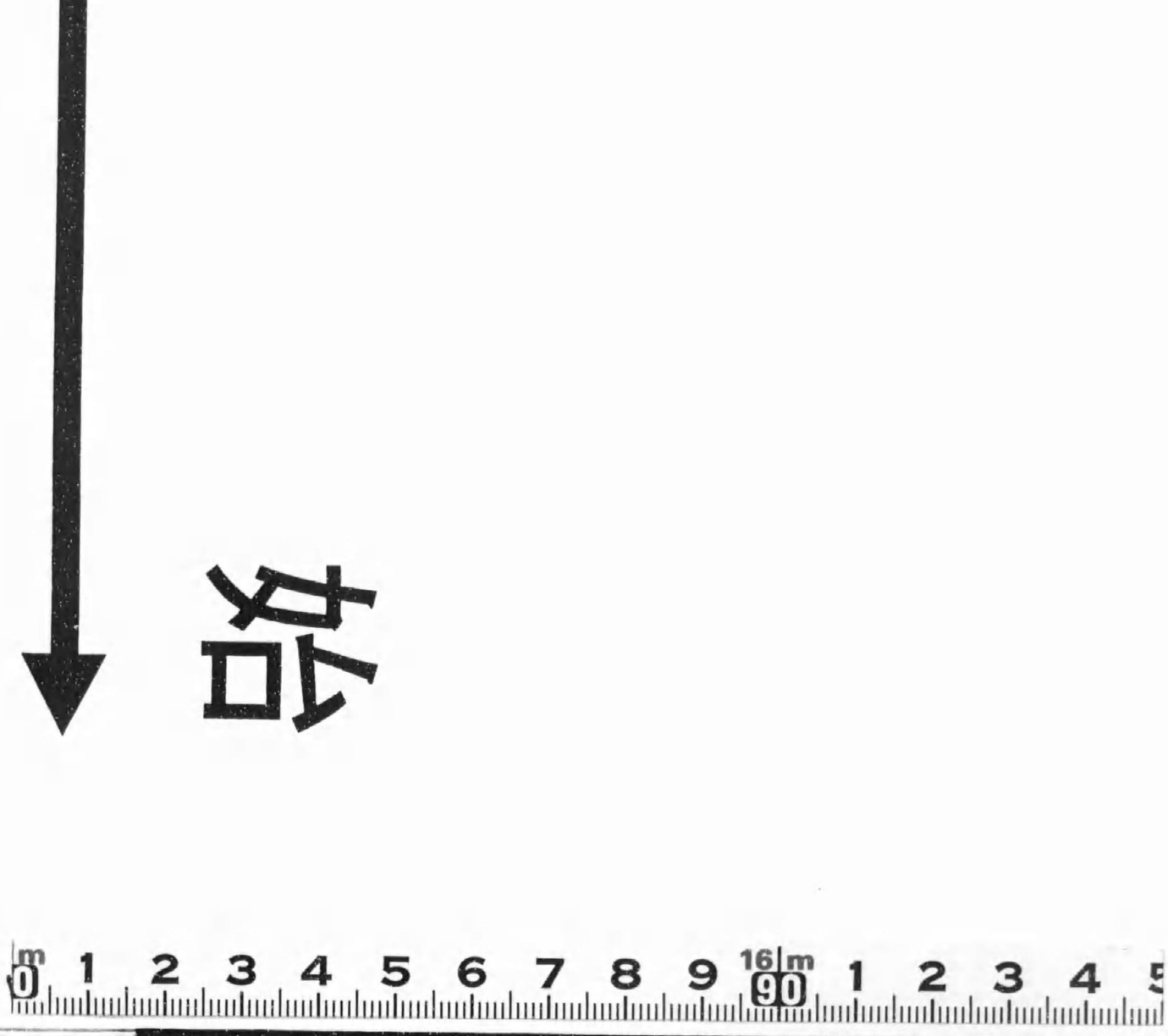
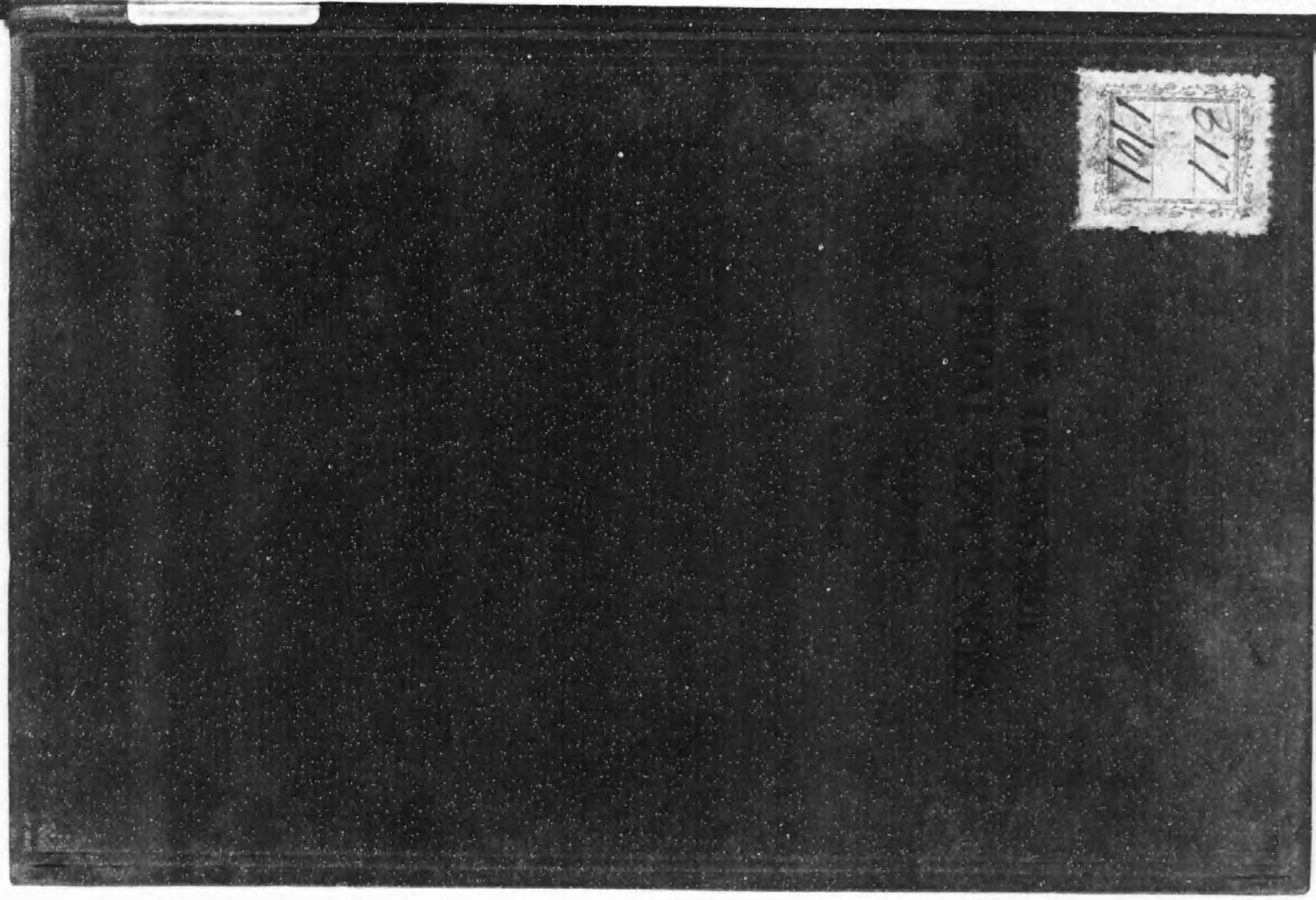

背
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 16 90 1 2 3 4


1911
617

HOW TO CONSTRUE
TYPICAL SENTENCES

(For Beginners)

By

R. Kagatani

特220
622

HOW TO CONSTRUE TYPICAL SENTENCES

(For Beginners)

By

R. Kagatani

初めて學ぶ人の

英文解釋法

研數學館英語部主任
中等英語研究會主幹
加賀谷林之助著

★

東京
先進堂書店

はしがき

どうも初學の方には譯文のまる暗記をなさる傾きがあります。所謂虎の卷といふものが流行するのはかうしたことがその原因の一つではなからうかと信じます。ところで、この譯文のまる暗記といふことはどんな結果を齎すでありませうか。先づ第一に英文の組織に理解がなくなります。從つて應用の才を失ひ、英語に對する親しみを失ふこととなり、同時に英作文、和文英譯などといふ學科の修得は絶對に不可能といふことになつてしまひます。そうして將來各種の試驗を受ける實質上の資格がなくなつてしまふのであります。ところが、この譯文のまる暗記をするといふ傾向は初學の方ばかりには限つておりません。今日の中等學校の生徒諸君を初めとし、上級諸學校の受驗志望者、はなはだしきは高等程度の學生諸君まで、所謂英學生の大半が陷つてゐる通弊であります。これは全く、初學の折、この弊を矯はめなかつた結果なのであります。そして、これが今日中等學校卒業者の英語力がとかく非難さるゝ原因となり、遂には文化人として絶對修得の義務ある我が英語學科の廢止などといふ暴論を起すやうにもなるのであります。

著者はこの通弊の打破に多年苦心して來た一人であります。拙著『新制準據生きた英文法』、『中等學校全リーダ必修英文公式的解釋法』の如きは全くこの目的のもとに公けにしたものなのであります。幸ひ學生諸君の盛んなる共鳴があり、該書の版數の重なつて行くことを欣んでおるのであります。ところが、謂はゞ、前者は上級用、後者は中等科用でありまして、最もこの通弊を打破すべき重大なる時機におらるる初學者の方々に獻ずべきものを公けにすることが、著者としては最大の義務であつたのであります。ところが折よく先進堂書店の主人小野氏から『初めて學ぶ人の英文解釋法』をものして吳れとの御註文がありましたので、絶好の機會と、こゝにこの小册子が許す最大の範圍

に於て講述することになつた次第であります。

今迄申述べて來ました通り、著者の主旨は譯文のまる暗記を排するにあります。これこそ英語の眞に實力を得る道であります。讀者諸君も必ずやこの道を渇望しておられたことと信じます。そこで本書を讀まれます際には少くとも、次の箇條は是非お守りが願ひ度いのであります。

1. 第一回は必ず編、章を追ふて順次熟讀なさること。
2. 各節の終に揭げた定義は將來の講義に關係があるのでありますから、是非御忘れないやう三誦下さること。
3. 各節の終に揭げた要領になつて既得の知識を復習なさること。
4. 用例練習題等は現行各種リーダ（卷一を主とし、卷二卷三を從としました）より採つてあるのでありますから、こんな英文は出なかろうなどと取捨撰擇なさらぬこと。
5. 用例に對する講義を讀まれる際には御自分でも研究を行はれつつ讀むで下さること。
6. 各編各章の終にある練習題は必ず、一旦は解剖をし、その上試驗を實際お受けになる積りで答案を紙に書いて御覽になり、最後に卷末の解答と對照されること。
7. 用例、練習題の難語難句はすべて解釋してありますが、既出の語句には一切解釋を與へてありませぬ。そこで忘れた語句のあつた場合には何とかして思出すやう努められ、いよ々々不可能な場合には卷末の索引によつて知られたきこと。
8. 用例、練習題は必ず正確に讀まれること。語句につけた假名は先づ正確な發音を出すに便利なものでありますが、ヴは下唇を上齒につけて「ブッ」と息を強く出し、シは唇を圓く突出し、舌の前方を口蓋に高く上げ、舌の先を上の齒に接近させて「シッ」といふやうな音を出し、スは舌の先を上齒へ輕くつけ、下齒はその舌の先を下から壓すやうにして「スウ」と息を通じて頂きます。
9. 本書讀了後も不斷に繰返し熟讀なさること。
10. 本書の主旨でどし々々他の英語の書物をも讀破なさること。

以上の條項を嚴守なされば、必ず諸君の英語の實力はすばらしきものになるといふことを著者は信じて疑ひませぬ。勿論、淺學菲才の著者でありますから、或は思はぬ謬見誤記に陷つたかも知れませぬ。御研究の傍ら御氣付になりましたら、是非御叱正下さいませ。最後に本書の編纂校正に我が節之舍同人から多大の御盡力を頂いたことをこゝに深く感謝致します。

昭和三年

櫻の便りを聞きつゝ

武藏野の寓居にて

著者識す

日　次

頁
第壹編　緒論 …… 1
第貳編　文の種類 …… 21
　第一章　構造に依る文の種類 …… 21
　第二章　意味に依る文の種類 …… 32
第參編　品詞 …… 41
　第一章　動詞(一) …… 41
　第二章　動詞(二) …… 64
　第三章　動詞(三) …… 82
　第　章　主部及び目的語 …… 92
　第五章　補語 …… 112
　第六章　修飾語及び修飾語の修飾語 …… 122
　第七章　關係代名詞及び關係副詞 …… 135
　第八章　疑問代名詞及び疑問副詞 …… 153
　第九章　接續詞 …… 163
附錄　練習題解答 …… 174
　　語句集 …… 187

初めて學ぶ人の英文解釋法

第　壹　編

緒　　論

昔から『讀書百遍意自ら通ず』と言ふております。英文を解釋する道も亦この決心で進むことが第一であります。そこで英文を手にしましたならば、先づ

ゆつくり何回もその英文を讀む

で見なければなりませぬ。その折、たとへ意味を知らぬ語句がありませうとも、また、まことに難しいと思はれてもかまひませぬから、是非、ゆつくり、ゆつくり、何回も、何回も讀むで下さい。

この百讀が濟みましたならば、

大文字から．か、？か、！の符號のところまでを一と區切りとして、その間をまたゆつくりと何回も讀む

で見て下さい。この場合大文字から，までを一區切りと考へてはなりませぬ。必ず大文字から．か、？か、！の符號のところまでを一と區切りとするのであります。；も：も區切りの目標としてはなりませぬ。勿論“や、”や、——や、……などは決して區切りの目標とはならぬのであります。そうして、その一區切りの

最初の一つを採つて、それをまた、ゆつくり、ゆつくり何回も讀むで見るのであります。

その一と區切りの百讀が濟みましたならば、その中で

何々する、何々であるといふ語を見付けて、その下に線を引いておきます。

勿論何々する何々であるは何々した、何々であつた、何々するだらう、何々であらうなどになつてゐましても差支へはないのであります。

その次に何々する、何々であるといふ所謂動作、狀態をするものは何であるか、卽ち、この區切りの中で、どの語がこの動作を爲し、どの語がこの狀態にあるかを見付けます。一言を以て言ひますと、

その動作、狀態を爲す語を見付ける

のであります。それが見付かりましたならば、その語から何々する、何々であるてふ語のところまで鉛筆で線を引いて來ます。

定義

1. 大文字から．か、？か、！の符號のところまでの一と區切りを**文**と言ふ。
2. 文の中で何々する、何々であるといふ語を**動詞**と言ふ。卽ち何々するは動作を、何々であるは狀態を表はす語であるから、動作なり、狀態なりを表はす文中の語が動詞なのである。
3. 動詞が表はす動作狀態を爲す語を**主部**と言ふ。

要領

1. 英文を何回も々々々ゆつくり々々々々讀むこと。
2. 文を區切ること。
3. 文中の動詞を見付けること。
4. 動詞の主部を見付けること。

主部　動詞

何々する、何々であるといふ語には如何に何々する、如何に何々であるてふ語がありはせぬかと探して行きます。換言すれば

動詞には如何やうにといふ語がないかと探す

のであります。若し見付かりましたならば、その語から動詞のところまで鉛筆で線を引いて行きます。

次に動作、狀態を爲す語には如何なるてふ語がないかとまた探して行きます。換言すれば

主部には如何なるといふ語がついてゐないかと探す

のであります。若し見付かりましたならば、その語から主部のところまで鉛筆で線を引いて置きます。

また

動詞につく如何やうにといふ語に更に、如何やうにといふ語がついてゐないかと探します。

もし有りましたならば、その語から動詞につく如何やうにといふ語のところまで鉛筆で線を引いて來ます。

同様に

主部につく如何なるといふ語に如何やうにといふ語がついてゐないかと探します。

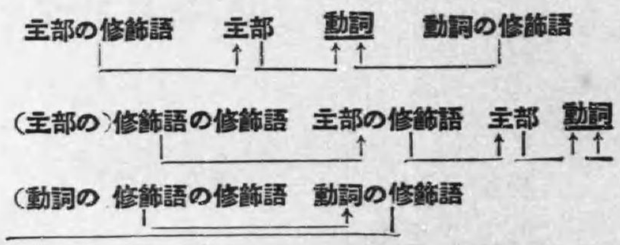
若し見付かりましたならば、その語から如何なるといふ語のところまで鉛筆で線を引いて行きます。

定義

4. 動詞につく如何やうにといふ語を**動詞の修飾語**と言ふ。
5. 主部につく如何なるといふ語を**主部の修飾語**と言ふ。
6. 動詞の修飾語、主部の修飾語に更に如何やうにとつく語を**修飾語の修飾語**と言ふ。

要領

5. 動詞の修飾語を見付けること。
6. 主部の修飾語を見付けること。
7. 修飾語の修飾語を見付けること。



何々であるといふ動詞は嚴密に言ひますと、『ある』が動詞で、つまり狀態を表はす語なのでありますが、『何々である』とは『何々で』『ある』が一共になつたもので、『ある』といふ動詞には『何々で』といふ語が性質上必ずついてゐる譯なのであります。そこで

『ある』といふ動詞でありますと、その『何々で』を見付けねばなりませぬ。

それが見付かりましたならば、何々といふ語から『ある』てふ動詞のところまで鉛筆で線を引いて來ます。この場合には語の上の方へ線を引く方が宜いやうであります。

ところが何々するといふ動詞になりますと、『何々を何々する』といふ關係が出て來る筈であります。そこで

『何々する』といふ動詞でありましたならば、『何々を』といふ語を見付けねばなりませぬ。

それが見付かりましたならば、その『何々を』といふ語の上から『何々する』といふ動詞のところまで鉛筆で線を引いて來ます。

また何々するといふ動詞は『何々を何々する』といふ關係を起してゐる場合があります。そういふ場合には『何々を』といふ語を見付けました上で、

更に『何々に』といふ語を見付けねばなりませぬ。

それが見付かりましたなれば、その『何々に』といふ語の上からまた、『何々する』といふ動詞のところまで鉛筆で線を引いて來ます。

また何々するといふ動詞は『何々に何々する』といふ關係を起してゐる場合があります。かういふ場合

には

『何々に』といふ語を見付け、『何々を』といふ語を見付ける必要があります。

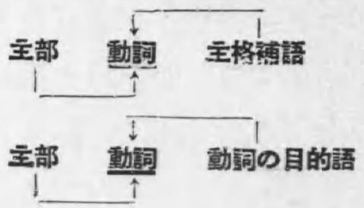
そうしてそれが見付かつた上で、それら各々から『何々する』といふ動詞のところまで鉛筆で線を引いて行きます。この場合も語の上の方へ線を引いた方が宜いやうであります。

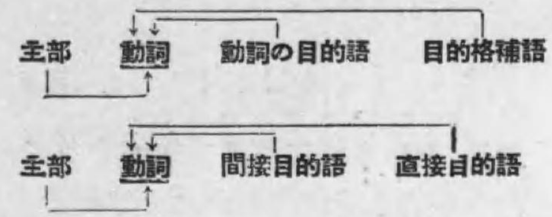
定義

7. 「何々である」の「何々」を**主格補語**と言ふ。
8. 「何々する」といふ動詞であると、「何々を何々する」と「何々を」といふ語がつく。この「何々を」を**動詞の目的語**と言ふ。
9. 「何々を何々にする」といふ關係を起してゐる場合、「何々を」は「何々を何々する」と同じ關係であるから、上掲(3)の定義により「何々を」は動詞の目的語であることを知る。そうして「何々に」なる語を**目的格補語**と言ふ。
10. 「何々に何々を何々する」といふ關係を成しておる場合には、「何々に」を**間接目的語**、「何々を」を**直接目的語**と言ふ。

要領

8. 動詞が「である」の場合には主格補語を見付けること。
9. 動詞が「何々する」の場合には動詞の目的語を見付けること。
10. 目的語と目的格補語とがないかと探すこと。
11. 間接目的語と直接目的語とがないかと探すこと。





さて次に何々であるとなつてゐますと、その『何々』に『如何なる』といふ語がついてゐることがあります。つまり如何なる何々であるとなつてゐることがあるのであります。また何々を何々するとなつてゐる場合でも、『何々を』に『如何なる』といふ語がついてゐることがあります。つまり如何なる何々を何々するといふやうになつてゐることがあるのであります。同じ様に何々を何々に何々するの關係にありましても、何々に何々を何々するの關係にありましても、その『何々に』『何々を』に一々『如何なる』といふ語がついてゐることがあるのであります。換言して見ますれば、主格補語、動詞の目的語、目的格補語、間接目的語、直接目的語、それら各々に『如何なる』といふ語がついてゐることがあるのであります。そこで

各補語なり、目的語なりにつく『如何なる』といふ語を見付ける

ことが肝要であります。そうしてその如何なるといふ語の下から線を始め、それがつく主格補語なり、動詞の目的語なり、目的格補語なり、間接目的語なり、直接目的語なりのところまで引いて置きます。

するとまた、この各補語なり、目的語なりにつき

ますところの『如何なる』といふ語へ更に『如何やうに』といふ語がつくことがあります。そこで

各補語なり、目的語なりにつく『如何なる』といふ語に更に『如何やうに』とつく語を見付けねばなりませぬ。

そうして、それらが見付かりましたなれば、その『如何やうに』といふ語からそのつくべき『如何なる』といふ語のところまで、下の方で、線を引いて置きます。

定　義

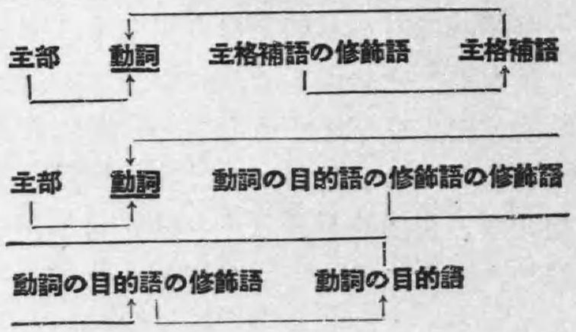
11. 主格補語、動詞の目的語、目的格補語、間接目的語、直接目的語につく『如何なる』といふ語を各々**主格補語の修飾語、動詞の目的語の修飾語、目的補語の修飾語、間接目的語の修飾語、直接目的語の修飾語**と言ふ。

12. 各補語なり、目的語なりの修飾語につく『如何やうに』といふ語を**各補語なり、目的語なりの修飾語**と言ふ。例へば如何やうに如何なる何々を何々するとあれば、この『如何やうに』は動詞の目的語の修飾語の修飾語と言ふのである。

要　領

12. 各補語なり、目的語なりの修飾語を見付けること。

13. 各補語なり、目的語なりの修飾語の修飾語を見付けること。



それでは各種のリーダから二三例を採つて實際に練習して見ませう。

1. Birds　sing.

（語句）birds（バーヅ）＝bird（バード）＋s（ズ）＝鳥＋共＝鳥共
sing（シン）＝囀る

勿論、何回も、ゆつくり讀むで見ます。大文字Bから．までが一と區切りでありますから、これは一と區切りだけ出ておるのであります。即ち一文なのであります。さてこの文中に於て『何々する』といふ語、即ち動詞は『囀る』といふ sing でありませう。そこでその下に線を引いて置きます。次にこの囀るといふ動作を爲す語は『鳥共』、即ち birds が主部でなければなりませぬ。故に birds から sing のところまで線を引いて來ます。つまり

Birds　sing

とするのであります。

2. The birds sing sweetly.

（語句）the（ヂィー）＝あの
sweetly（スウイートリ）＝愛らしく

さて、この文中の動詞は sing でありまして、主部は birds であります。『あの』は何々すると動作を表はしたり、何々であると狀態を表はす語ではありませぬ。また『あの』は『何々する』『何々である』を爲すわけには行きませぬ。假りに『あの囀る』と言ふても何のこ

とだか解りますまい。そこで the は動詞でもなく、主部でもなく、『あの鳥共』と主部に『如何なる』とつく關係の語でありますから主部の修飾語と見なければなりませぬ。同じ樣に精査しますと sweetly も動詞の修飾語であることがわかります。こゝに於て

The birds sing sweet'y.

とせねばならぬのであります。

3. These ve y pretty birds sing very sweetly.

(語句) these (ヂィーズ)=これ等の
very (ヴえリ)=大層
pretty (プリティ)=綺麗な

前例と同じやうに考へて行きますと、sing が動詞、birds が主部、sweetly が動詞の修飾語、sweetly のすぐ前の very は動詞の修飾語の修飾語、these は主部の修飾語、pretty も主部の修飾語、pretty のすぐ前の very は主部の修飾語の修飾語であります。そこで

These very pretty birds sing very sweetly.

となります。

4. It is a pig.

(語句) it (イト)=それは
is (イズ)=である
a (ア)=一つの
pig (ピグ)=豚

この文では is が動詞、it が主部。ところが is は

『ある』といふ動詞でありますから、『何々である』と『何々で』がこの文中に存在するわけであります。そこで pig が主格補語と考へるより外に道がありませぬ。自然 a は主格補語の修飾語でありませう。つまり

It is a pig.

となります。

5. Cats catch mice.

(語句) cats (ケァツ)=cat (ケァト)+s(ス)=猫+共=猫共
catch (ケァチ)=捕ふ
mice (マイス)=はつか鼠

この文では catch が動詞、cats が主部。ところが catch は『捕ふ』といふ動詞でありますから、『何々を捕ふ』とせねば落付の惡い感が起りませう。そこで mice といふ動詞の目的語が存在します。從つて

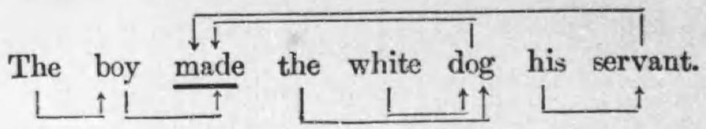
Cats catch mice.

となります。

6. The boy made the white dog his servant.

(語句) boy (ボイ)=少年
made (メイド)=した
white (ワイト)=白き
dog (ドグ)=犬
his (ヒズ)=彼の
servant (さーヴアント)=召使

この文では made が動詞、boy が主部であります。そうして dog が動詞の目的語になり、servant が目的格補語になります。次に boy の前の the は主部の修飾語、white dog の前の the は動詞の目的語の修飾語、white も動詞の目的語の修飾語であります。最後に his は目的格補語の修飾語なのであります。故に

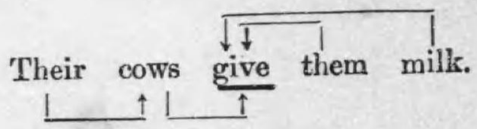


となります。

7. Their cows give them milk.

(語句) their (ヅエア)=彼等の
cows (カウズ)=cow (カウ)+(ズ)=牝牛+共=牝牛共
give (ギヴ)=與ふ
them (ヅエム)=彼等に
milk (ミルク)=乳

この文では give が動詞でありまして、cows が主部であります。ですから their は主部の修飾語でありませう。次に them は間接目的語で、milk は直接目的語なのであります。そこで

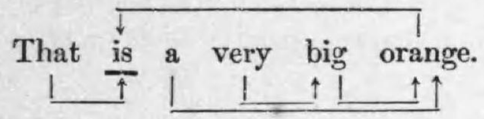


となります。

8. That is a very big orange.

(語句) that (ヅエアト)=あれは
big (ビグ)=大なる
orange (おリンヂ)=くねんぼ

この文では is が動詞でありまして、that が主部であります。そうして orange が主格補語になつてゐます。すると a 及び big は主格補語の修飾語でありませう。從つて very は big といふ主格補語の修飾語に更に『如何やうに』とつく關係になつてゐますから、主格補語の修飾語の修飾語と考へられるわけであります。依つて



となります。

さて、かうしたことが一體何の役に立つのでありませうか。ところが、この文の解剖——これが英文解釋法の根本的鐵則となるのであります。如何なる英文を見ましても、必ず今迄述べて來ましたやうな關係の何れかをなしてゐますから、先づこの文の解剖といふことを行つて頂きます。そうして

主部から譯し、主部にはガ又はハといふテニヲハを與へ

て御覽なさい。次に主格補語があれば、主格補語へ、動詞の目的語があれば、動詞の目的語へ廻ります。

主格補語にはデ又はニ、動詞の目的

語にはヲ又はニといふテニヲハを與へ

て頂きます。ところで動詞の目的語が間接目的語と直接目的語と二つになつてゐる場合には、先づ間接目的語から譯し

間接目的語にはニ、直接目的語には
ヲといふテニヲハを與へ

て御覽なさい。また更に、目的格補語がありましたならば、動詞の目的語を先に譯し、

目的格補語にはニといふテニヲハを
與へ

て下さい。そうして何れの關係の文でも、

最後に動詞を譯す

のであります。

ところで各修飾語はどうなるかと言へば、

各修飾語はそのつくところを譯す前
に譯す

といふのであります。例へば主部、動詞、主格補語の修飾語、主格補語といふ關係をなして居りましたならば、主部を譯し、主格補語の修飾語を譯し、主格補語を譯し、最後に動詞を譯して納めます。

では各修飾語の修飾語はどうするかと言へば

各修飾語の修飾語は各修飾語を譯す
前に譯す

といふのであります。しかし、各修飾語の修飾語の前に、單なる修飾語の置いてある場合には、その修飾語

を先に譯して後、修飾語の修飾語を譯します。例へば主部の修飾語、主部の修飾語の修飾語、主部の修飾語、主部、動詞といふ關係でありましたならば、最初の主部の修飾語を譯し、次に主部の修飾語の修飾語、主部の修飾語、主部、動詞といふやうに譯します。結句、英文は

左から右へと順次に譯すが、たゞ動
詞だけは最後に譯す

といふ原則が得られます。

以上が英文解釋法の根本的鐵則であります。從つて讀者には三讀三誦すべき箇所でなければなりませぬ。今後いろ々々と話を進めて行きますが、何時の場合にも、この鐵則は應用して行かなければならぬのであります。くれぐれも三讀三誦あらんことを希望して置きます。世の初學者諸君が英文解釋について不得手な唯一の理由はこの鐵則を御存じないからだと言ふも決して過言ではないと著者は信じて居ります。

定義

13. 文中の主部、動詞、動詞の目的語、間接目的語、直接目的語、主格補語、目的格補語、各修飾語、各修飾語の修飾語を探すことを**文の解剖**といふ。
14. 動詞の性質により、動詞の目的語、間接目的語、直接目的語、主格補語、目的格補語を取るものである。動詞と之等を總稱して**述部**と言ふ。
15. 各修飾語、各修飾語の修飾語を總稱して**修飾部**と言ふ。
16. 文は主部、述部、修飾部よりなる。されど修飾部なき文は存在するとも、主部と述部なき文は絕對に存在せぬ。故に主部と述部とは文の**主要素**と謂ひ、修飾部を文の**從屬要素**と謂ふ。

要領

14. 英文を解剖した後は左から右へと順次に譯す。但し動詞だけは最後に譯す。
15. 主語にはガ又はハなるテニヲハを與ふ。
16. 動詞の目的語にはヲ又はニなるテニヲハを與ふ。
17. 間接目的語にはニ、直接目的語にはヲなるテニヲハを與ふ。
18. 主格補語にはデ又はニ、目的格補語にはニなるテニヲハを與へる。

それでは實際に譯をつけて見ませう。それにしても前掲 1 から 8 迄の例題は折角解剖したのでありますから、先づあれを例にとつて見やうではありませぬか。

1. Bird sing.

(譯文) 鳥共が囀る。

2. The birds sing sweetly.

(譯文) あの鳥共は愛らしく囀る。

3. These very pretty birds sing very sweetly.

(譯文) これらの大層綺麗な鳥共は大層愛らしく囀る。

4. It is a pig.

(譯文) それは一つの豚である。

〔註〕 この場合主格補語にニなるテニヲハを與へることは出來ぬといふことは明白でありませう。

5. Cats catch mice.

(譯文) 猫共ははつか鼠を捕ふ。

〔註〕 この場合動詞の目的語にはニなるテニヲハは與へ難いといふことは誰でも察知出來ることであります。

6. The boy made the white dog his servant.

(譯文) あの少年はあの白き犬を彼の召使にした。

7. Their cows give them milk.

(譯文) 彼等の牝牛共は彼等に乳を與ふ。

8. That is a very big orange.

(譯文) あれは一つの大層大なるくねんぼである。

次に主格補語にニ、動詞の目的語にニといふテニヲハを與へる場合の例を採つて見ませう。

9. The plants grow large.

(語句) plants (プラーンツ)=plant (プラーント)+s (ス)=植物+共=植物共
grow (グロウ)=なる
large (ラーヂ)=大なる

The plants grow large.

(譯文) あの植物共は大なるになる。

10. The gentleman reached London yesterday.

（語句） gentleman（ヂェントルマン）＝紳士
reached（リーチト）＝reach（リーチ）＋ed（ト）＝着く＋した＝着いた
London（らンドン）＝倫敦
yesterday（えスタデイ）＝昨日

The gentleman reached London yesterday.

（譯文） あの紳士は倫敦に昨日着いた。

かの鐵則を應用すれば、このやうにどんな英文でも先づ意味の通ずる譯文を得らるゝのであります。しかし、このまゝでは、まことに譯文として、ぎこちないものであります。卽ちこれら鐵則を應用したまゝの譯文は所謂直譯といふものでありまして、我國語からはかなり離れた特殊の文體であります。そこでこの直譯をこのまゝ放つて置いては折角の勞も何の役にも立たぬことになつてしまひます。故にこれから、この直譯を成るべく邦語に近く直して行かねばなりませぬ。これを意譯するといふのであります。しかし意譯は直譯を土臺として、その直譯の表はす意味を脫しないやうに日本語らしいものに直すのであるといふことを忘れてはなりませぬ。そこで

直譯を得て後に意譯成る。

これは英文解釋上重大な標語でなければなりませぬ。初學者讀君はとかくいきなり意譯にとりつきたがるものでありますが、先づかの鐵則を應用して直譯を得、後之を意譯に直すべきであります。例へば前例九番の譯文——直譯——は『あの植物共は大なるになる』はまことに邦語としては面白くないものであります。しかし、あの英文 The plants grow large. の意味は全くこの直譯の示す通りなのであります。そこでこの直譯の意味を脫しないやうにして、一方日本語らしくこの譯文を直して行かねばなりません。それには先づ、邦語は英語のやうに數のことをあまり嚴密に言ひませぬ。例へば『木に鳥がゐる』と邦語で言ひますが、英語では『あの木に一羽の鳥がゐる』とか、『あの木に數羽の鳥がゐる』と數を明確に表はします。そこで上例の譯文でも『あの植物共は』は寧ろ邦語の場合は『あの植物は』とか、『あの植木は』といふべきでありませう。次に『大なるになる』は『大きくなる』と言換へられ、而も『大きくなる』と言ふた方が遙かに邦語らしいではありませんか。そこであの譯文も『あの植木は大きくなる』とかう譯せば立派に意譯が出來たわけであります。これをあの英文に對する譯文として採用するのであります。また若し試驗の際には答案として採用すべきものであります。

定義

17. 英文解釋法の鐵則を應用したまゝの譯文を**直譯**といふ。
18. 直譯を土台として、邦語らしきものに直したる譯文を**意譯**といふ。

要領

19. 直譯を得て後に意譯成る。

練習題 1

次の英文を和譯せよ。

(1) This is a hen.

(語句) this (ヂイス)=これは
hen (ヘン =牝鷄

(2) That is an owl.

(語句) an (アン)=一つの
owl (アウル)=梟

(3) It is a big ship.

(語句) ship (シプ)=船

(4) His name is Bob.

(語句) name (ネイム)=名
Bob (ボブ)=男兒の名。人名は何處に在つても大文字で書いてある。そこでこの大文字と．や、? や、! では一と區切り、即ち文とはならぬ。勿論 Bob is his name.のやうになれば、大文字 B が文たる目標となる。

(5) They play tennis.

(語句) they (ヂエイ)=彼等は
play (プレイ)=行ふ
tennis (てニス)=庭球

(6) I am a very little fish.

(語句) I (アイ)=私は。この I だけは何處に在つても大文字を使ふ。
am (アム)=ある
little (リトル)=少さき
fish (フィシ)=魚

(7) You are a very pretty bird.

(語句) you (ユー)=君は
are (アー)=ある

(8) She gave me three pretty pictures.

(語句) she (シー)=彼女は
gave (ゲイヴ)=與へた
me (ミー)=私に
three (スリー)=三つの
pictures (ぴクチアズ)=picture (ぴクチア)+s(ズ)=繪+共=繪共

(9) My mother made me a soldier.

(語句) my (マイ)=私の
mother (まヅア)=母
me=私を
soldier (そウルヂア)=軍人

(10) The roses smell very nice.

(語句) roses (ロウヅズ)=rose (ロウズ)+s(ズ)=薔薇+共=薔薇共
smell (スメル)=香る
nice (ナイス)=好き

第二編

文の種類

第一章 構造に依る文の種類

第壹編で取扱つた文例は悉く大文字から．迄の間に主要素たる主部、述部がたゞの一回しか出ておりませんでした。即ち圖解すれば

	述　部		
主　部	動　詞		
	動　詞	主格補語	
	動　詞	動詞の目的語	
	動　詞	動詞の目的語	目的格補語
	動　詞	間接目的語	直接目的語

といふ五つの何れかの關係でありました。ところが中には

文 {and / but / for} 文

書換へれば

主部＋述部 {and / but / for} 主部＋述部

となつて居ることがあります。この and（アンド）、but（バト）、for（フォー）は前の文に於ても、後の文に於ても主要素でもなければ、從屬要素でもありませぬ。是等は前の文と後の文とを接いでおるものであります。かうした二つの文が大文字から．迄の間に存在しておる文があります。かういふ場合には必ず前文、後文ともに第壹編に依る解剖を行つて、

前文から譯し、次に and, but, for を譯して、後文の譯に移る

のであります。この場合、原則として、and は『そうして』、but は『しかし』、for は『何となれば』と譯します。今實例に當つて見ますと、

11. You are a boy and I am a girl.

（語句）girl（ガール）＝少女

の如きは

You are a boy and I am a girl.

となります。そこで

（譯文）君は一つの少年であるそうして私は一つの少女である＝貴方は少年で、私は少女です。

12. She has a basket, but I have a bat.

（語句）has（ヘアズ）＝持つてゐる
basket（ばースキト）＝籠
have（ハヴ）＝持つてゐる。（練習題解答 1. 6 註參照）
bat（ベアト）＝打球棒（ばつと）

の如きは

She has a basket, but I have a bat.

となります。そこで

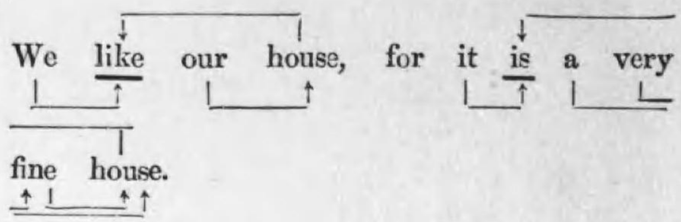
（譯文）彼女は一つの籠を持つてゐるしかし私は一つの打球棒を持つてゐる＝彼女は籠を持つてゐますが、私はバットを持つてゐます。

13. We like our house, for it is a very fine house.

（語句）we（ウイー）＝私共は
like（ライク）＝好む

our (あゥア)=私共の
house (ハウス)=家
fine (ファイン)=立派な

の如きは



となりますから、

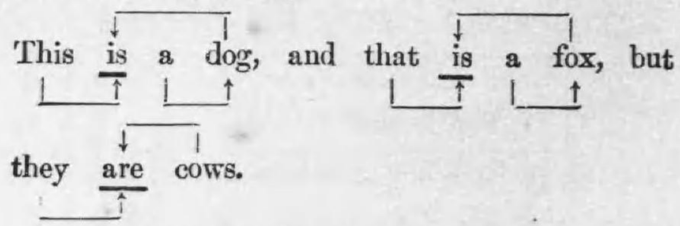
(譯文) 私共は私共の家を好む何となればそれは一つの大層立派な家である=私達はこの家が好きです、といふのはまことに立派な家なんですから。

のやうに譯して行きます。つまり and や、but や、for といふ語によつて文は長いものになつて行くのであります。そこで

14. This is a dog, and that is a fox, but they are cows.

(語句) fox (フォクス)=狐

のやうに長くなつてゐることがあります。しかし同じ樣に取扱ふことが出來ます。



ですから

(譯文) これは一つの犬であるそうしてあれは一つの狐であるしかし彼等は牝牛である=これは犬で、あれは狐です。しかしあれは牝牛です。

のやうに譯せます。

定義

19. 主部と述部とがたゞ一回のみ存在する文を**單文**と言ふ。
20. 二つ以上の單文が and や、but や、for で繋がれる全文を**合文**と言ふ。
21. and, but, for の前後の文は之を**同位節**といふ。

要領

20. 合文は各同位節の解剖を行つて後、and, but, for の前の同位節から譯し、ヲに and, but, for を譯して、後の同位節の譯に移る。

ところが文によるとある單文が他の單文の主部となり、述部中の主格補語、動詞の目的語、目的格補語、間接目的語、直接目的語となつてゐるばかりでなく、更に各修飾部の用をなしておることがあります。かういふ場合には、先づ主要素なり、從屬要素なりになつてゐる單文の先端に that, if (イフ)、when (ウエン)、which (ウイチ)、where (ウエア)、who (フウー)などの語がついてゐるものであります。そうして取扱方はやはり、各單文の解剖を行ひます。そうして

どの單文がどの單文の如何なる要素をなしてゐるかといふことを定める

のであります。これが定りましたならば、主部、主格補語、動詞の目的語、目的格補語、間接目的語、直接目的語、修飾部等となつてゐる單文を括弧で括つてしまひます。それからその括弧の中の單文のつく場所を鉛筆で線を引いて行きます。例へば

15.　The train started when the bell rang.

（語句）　the（ヅア）＝あの。しかし特にこの場合譯出する要がない。そこでヅイーと讀まぬ。
train（トレイン）＝列車
started（スターティド）＝start（スタート）＋ed（イッド）＝出立する＋した＝出立した
when＝（後カラ譯シ上ゲテ來テ）時
bell（ベル）＝鈴
rang（レアン）＝鳴つた

のやうな英文は

The train started (when the bell rang.)

とするのであります。そうして

括弧の中の文から譯して行く

やうにすれば譯文が得られます。そこで本例なども

（譯文）　あの鈴が鳴つた時あの列車は出立した＝鈴が鳴ると汽車は出た。

となります。つまりこの文では when the bell rang は started といふ動詞の修飾語となつてゐるのであります。恰度 sing *sweetly* の sweetly と同じやうに、『鈴が鳴つた時出立する』と『出立する』といふ動詞に『如何やうに』、換言すれば『如何やうな時に』とつけたわけであります。

16.　That he is an honest boy is true.

（語句）　that＝（後カラ譯シ上ゲテ來テ）といふこと
honest（おニスト）＝正直なる
true（トルー）＝眞の

は解剖しますと

(That he is an honest boy) is true.

となります。そこで

（譯文）　彼が一つの正直な少年であるといふことは眞のである＝彼が正直な少年だといふことは本當です。

と譯すことが出來るのであります。つまり that he is an honest boy 全體が、is といふ動詞に對して、主部を成しておるのであります。故に『彼が一つの正直な少年であるといふこと』と譯した最後へ、主部であるがため、『は』といふテニヲハを與へた次第であります。

17.　I told my father that I was a boy.

（語句）　told（トゥルド）＝告げた
father（フあーヅア）＝父
was（ワズ）＝あつた

のやうな英文は

I told my father (that I was a boy.)

と解剖が出來るのであります。そこで

（譯文）　私は一つの少年であつたといふことを私は私の父に告げた＝私は少年ですと父に告げてやりました。

の如く譯せます。つまり that I was a boy 全體が直接目的語となつておるのであります。そこで『私は一つの少年であつたといふこと』と譯した最後へ、直接目的語であるがため、『を』といふテニヲハを與へた次第であります。

定義

22. 一つの單文が他の單文の主部、動詞の目的語、主格補語、目的格補語、直接目的語、間接目的語、または修飾語などとなつてゐる場合には、その一つの單文を**從屬節**と言ひ、他の單文を**主節**と言ふ。

23. 主節と從屬節との存在する全文を**複文**といふ。

要領

21. 複文にあつては從屬節は主節に對し如何なる要素となつてゐるかを定めねばならぬ。

22. 複文にあつては從屬節から譯して、次に that, when, if, where, which などを譯し、最後に主節を譯す。

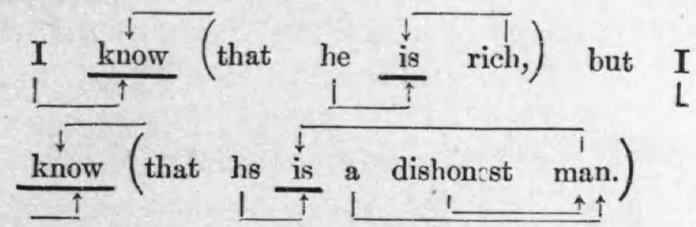
最後に、英文の中には、一つの複文と他の複文とが and, but, for 等で繫がれてゐることがあるのであります。また、中には、一つの複文と他の單文とが and, but, for 等で繫がれてゐることがあります。この種のものは英文として最も複雜なものでありまして、將來上級の英語を修められる場合には、その英語の殆んど

全部がこの種のものであります。然しながら取扱方、譯し方は單に今迄の場合を應用なされゝばそれでよいのであります。一二の例を採つて見ませうか。

18. I know that he is rich, but I know that he is a dishonest man.

（語句）　know（ノウ）＝知つてゐる
rich（リチ）＝金持の
dishonest（ディスオニスト）＝不正直なる
man（メアン）＝人

この文は一つの複文と他の複文とが but で繫がつてゐるのであります。そこで先づ



と解剖が出來るのであります。自然譯し方も

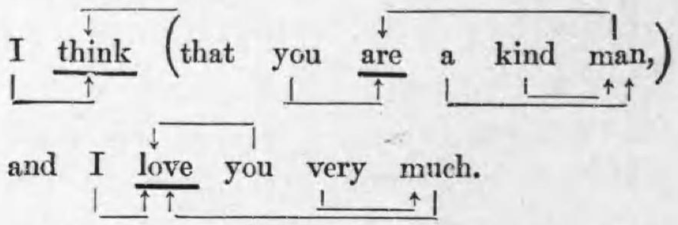
（譯文）　彼が金持のであるといふことを私は知つてゐるしかし彼が一つの不正直なる人であるといふことを私は知つてゐる＝私はあの人が金持だといふことも知つてゐますが、またあの人は不正直な人だといふことも知つております。

となるのであります。つまり、but の前の同位節から譯し、而もその同位節の從屬節から譯にとりかゝつたわけなのであります。

19. I think that you are a kind man, and I love you very much.

（語句） think（ㄊインク）＝思ふ
kind（カインド）＝親切なる
love（ラヴ）＝愛す
you＝君を
much（マチ）＝大いに

この文は一つの複文と他の單文とが and で繫がつてゐるのであります。そこで



と解剖が出來るのであります。されば譯し方も

（譯文） 君が一つの親切なる人であるといふことを私は思ふそうして私は君を大層大いに愛す＝私は君は親切な人だと思ふから、大いに愛するのだ。

となるのであります。この場合 and は、前の複文が理由で、後の單文がその結果といふやうな關係の間にあるのでありますから、意譯の場合『だから』といふやうな具合に直しませう。

定義

24. 一つの複文と他の複文とが and, but, for 等で繫げられてゐる場合、又は一つの複文と他の單文とが and, but, for 等で繫げられてゐる場合、この全文を**混文**と言ふ。

25. 英文はその**構造に依つて分ければ單文、合文、複文、混文の四種類**になる。

要領

23. 混文は單文、合文、複文の取扱方、譯し方を單に應用するに過ぎぬ。

練習題 2

次の英文を和譯せよ。

(1) The flowers smell sweet, and the little birds sing again.

（語句） flowers（フらウアズ）＝flower（フらウア）＋s（ズ）＝花＋共＝花共
sweet（スウイート）＝芳ばしき
again（アげイン）＝再び

(2) They love me very much, for I am a very honest boy.

(3) He saw a dog, but she saw a very large fox.

（語句） saw（ソー）＝見た

(4) They think that I am very happy.

（語句） happy（ヘァピ）＝幸福な

(5) When the boy finished the letter, he signed his name.

（語句） finished（フいニシト）＝finish（フいニシ）＋ed（ト）＝完成する＋した＝完成した
letter（れタ）＝手紙
signed（サインド）＝sign（サイン）＋ed（ド）＝記す＋した＝記した

(6) The fact is that he lost his watch yesterday.

(語句) fact (フエアクト)=事實
lost (ロースト)=失つた
watch (ウオチ)=懐中時計

(7) He lost the watch, but he said that he had another one.

(語句) said (セド)=言ふた
had (ヘアド)=持つてゐた
another (アなヅア)=別の
one (ワン)=一個

(8) You know that I lost the watch yesterday, but you know that I have another one.

(9) When she went there, she cried very loudly.

(語句) went (ウエント)=行つた
there (ヅエア)=あそこに
cried (クライド)=泣いた
loudly (らウドリ)=大聲に

(10) Our uncle has a cottage there, and we stayed there long.

(語句) uncle (あンクル)=伯父 (叔父)
cottage (こティヂ)=小宅
stayed (ステイド)=stay (ステイ)+ed (ド)=滯在する+した=滯在した。
long (ロン)=久しく

第二章　意味に依る文の種類

今迄は大文字から．迄を一と區切りとしたものについてのみ例を採つて來ましたが、第壹編でも述べました通り、大文字から？や！のところ迄を一と區切りとした英文が澤山あるのであります。そこで愈々その方へ話を廻はして見ませう。先づ？の符號は疑問を表はすものであります。そこで？の符號のついた文は何か疑問を發しておるものであります。そこで、？の符號のついた文を疑問文と言ひます。今邦語の疑問文は邦語の普通の文——平敍文——とどう違つてゐるかと考へて見まするに、『これは豚である』といふ平敍文の終りに『か』と加へますと、卽ち『これは豚であるか』と言へば、はや疑問文となつてしまひます。

ところが英語の方では

(平敍文) This is a pig. (これは豚である)

(疑問文) Is this a pig? (これは豚であるか)

といつた具合に、主部である this と動詞である is とがその位置を轉倒してしまひます。のみならず文の尾に必ず？の符號をつけるのであります。そこで文の終に？の符號がついておりましたならば、主部と動詞の位置が轉倒してゐるといふことを頭に置かねばなりませぬ。然し文の解剖の點につきましては同じことであります。つまり

Is this a pig?

とすればよいのであります。譯し方も平敍文と同じに譯します。然し

疑問文は最後に『か』を添へて譯す

のであります。

今度は！で終つてゐる文の取扱方や譯し方を研究して見ませう。一體！の符號は感動したといふことを表はすものであります。そこで！で終つてゐる文は感動したことを表はしてゐる文であります。そこで！で終つてゐる文を感歎文と言つております。さて感歎文の特徴は終りに！の符號がついてゐるばかりではありませぬ。必ず文の始めが what（ウオト），how（ハウ）の何れかの語になつておるのであります。そうして

彼は親切である。

とあたりまへに述べてゐる文——平敍文——は

He is kind.

でありますが、これを今『親切だ』といふことを感歎的に發表しますと、

親切だ彼は。

と邦語でも文の要素の位置が變つて來ます。英語でも

Kind he is.

となります。しかしこのやうに kind を強く發表しますために、very（大層）といふ意味の極度の場合である how なり what なりを kind につけます。そこで

How kind he is!

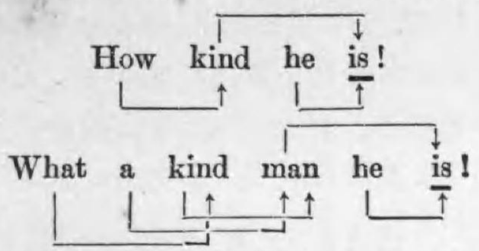
と文尾に！迄添へるやうになるのであります。但し what の場合には

What a kind *man* he is!

とか

What a kind *boy* he is!

といふやうに『親切な』といふ語だけでなく、その次に『親切な人』『親切な兒』といふやうな語を置くときに用ふるのであります。そこで感歎文の解剖も



のやうに how や what を恰度 very と同じやうに修飾語なり、修飾語の修飾語として取扱つて致します。そうして譯し方は how や what のついた要素を感歎的に譯す必要があるため、

感歎文は先づ how を『まア』, what を『何と』と譯して、それらのつく要素に及び、最後に殘部を譯す

といふことになります。例へば

How kind he is!

まア親切なで彼はある＝まア親切な。

又　What a kind man he is!

何と一つの親切な人で彼はある＝何と親切な人だ。

と譯せばよいのであります。

最後に、『靜かにせい』といふやうな文は命令を發しております。『どうか一文やつて下さいませ』と乞食が

言ふておりますのは願望を述べております。しかしこの『どうか一文やつて下さいませ』もよく考へまするとと、願望であるが故に、特に他人に願ふが故に『どうか』とか『下さいませ』とか丁寧さを表はす語がつくのでありまして、實は『一文やれ』、即ち『私に一文を與へよ』といふ命令文の變化に過ぎませぬ。そこでこのやうな命令なり、願望を表はす文を命令文と言ふております。さて英語に於てこの命令文はどういふ形をなしておるかと見ますれば、主部が省かれておるのが原則であります。そうして普通、文尾は．でありますが、強く命令を發するやうな場合には！がついております。そこで、第一に

動詞のみ存在しその主部がなければ命令文

とかう考へることが出來ます。例へば

20. Come here.

（語句） come（カム）＝來る
here（ヒア）＝こちらへ

といふやうな文を解剖して見まするとと

Come here.

で、come といふ動詞があつても、主部といふものがありませぬ。勿論、定義 16 によりまして、これも英文である以上主部はあるのであります。即ち

You come here.

と you があるのではありますが、命令を發する場合、その動作の主體が you（君は）であることは先づ當然でありませう。而も命令といつたものはなまぬるく、丁寧くさく言ふておる筋のものでありませぬ。そこでわかりきつた you なる主部を省くのであります。そこでこの命令文の譯し方も

命令文は最後に『せよ』と加ふ

といふことになります。今上例は

こちらへ來るせよ＝こちらへ來い。

となるのであります。

勿論、一寸述べました通り you なる主部を省くのが原則でありますから、you といふ主部の存在する命令文がないのではないのであります。これは恰度、邦語でも、『君が太鼓をたゝくんだぞ』といふ具合の命令文があると同じなのであります。一例を採つて見ますと

21. You beat the drum!

（語句） beat（ビート）＝たゝく
drum（ドラム）＝太鼓

のやうなのは

You beat the drum!

で、

君は太鼓をたゝくせよ＝君が太鼓をたゝくんだ。

となります。

定義

26. 文を意味に依つて分けると平叙文、疑問文、感歎文、命令文の四種類となる。

要領

24. 疑問文は譯文の最後に『か』を加ふ。
25. 感歎文は先づ how を『まア』, what を『何と』と譯して、それらのつく要素に及び、最後に殘部を譯す。
26. 動詞のみ存在しその主部がなければ命令文である。命令文は譯文の最後に『せよ』と加ふ。

今假りに『これは豚であるか』と問はれたならば、何とか答へなければなりませぬ。その答の文を考へます時、それが二種の文に分けられるでありませう。例へば『然り、豚である』と『いや、豚でない』の二つの答の文がある筈であります。前者のやうな文を肯定文と言ひ、後者のやうな文を否定文と言ふております。今英語で見て行きますと、假りに Is this a pig? と問はれたなれば、その答は次の二種の文の何れかになります。

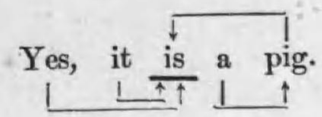
22. Yes, it is a pig.

(語句) yes (イエス)＝然り

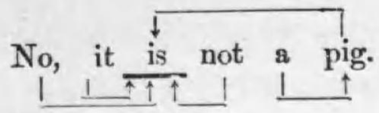
23. No, it is not a pig.

(語句) no (ノウ)＝否
not (ノト)＝ない

22番は肯定文、23番は否定文であります。そうして Yes も No も is といふ動詞の修飾語であります。そこで 22番は



23 番は



と解剖が出來ます。ところで

Yes, No は先に譯すもの

であります。蓋し邦語の『はい』『いゝえ』といふ言葉に當るからであります。そうなりますと 22番は

然りそれは一つの豚である＝はい、豚です。

23 番は

否それは一つの豚でないある＝いゝえ、豚ではありませぬ。

と譯がつくのであります。

たゞこゝに注意をなさらなければならぬことは肯定文、否定文は必ず疑問文の答への文に於てのみ表はれるといふやうなことはないといふことであります、今

24. Is it not a pig?

のやうな文は疑問文でありながら否定文なのであります。要するに『……でない』『……しない』と動詞が打消されてゐる文は否定文であつて、動詞が打消されて

おらぬ文は肯定文であります。そこで平敍文は勿論、疑問文でも、感歎文でも、命令文でも否定文はあるのであります。24番の例などは

Is it not a pig?

であつて、

それは豚でないあるか＝豚ではありませぬか。

といふやうな疑問を發しておるのであります。

定義

27. 動詞が打消されてゐる文は**否定文**と言ひ、然らざるものを**肯定文**と言ふ。

要領

27. Yes, No は先に譯すものである。

練習題 3

次の英文を邦語に譯せ。

(1) Is this a dog? Yes, it is a dog.

(2) How fast they run!

(語句) fast (ファースト)＝疾く
run (ラン)＝走る

(3) How pretty these flowers are!

(4) What a black dog it is!

(語句) black (ブレアク)＝黑き

(5) I am not a soldier, but I am a school-boy.

(語句) school-boy (スクールボイ)＝學童

(6) Is this a tent? No, it is not a tent.

(語句) tent (テント)＝天幕 (てんと)

(7) Is this a wind-mill? Yes, it is a wind-mill. Is that a wind-mill, too? No, it is not a wind-mill. It is a water-mill.

(語句) wind-mill (ウいンミル)＝風車
too (トウー)＝亦
water-mill (ウおータミル)＝水車

(8) You are not a fish. You are a bird. Am I a bird? No, you are not a bird. You are a fish.

(9) Is this umbrella yours? No, it is not mine.

(語句) this＝この
umbre'la (アムブれラ)＝蝙蝠傘
yours (イオーズ)＝君の物
mine (マイン)＝私のもの

(10) Is it not a big orange? Yes, it is a big orange. Is it yours. No, it is yours.

第參編

品詞

第一章 動詞 (一)

第壹編に於ても述べました通り、英文を解釋する場合、第一に心懸けねばならぬことはその文の動詞を見出すといふことでありました。從つて動詞についての

知識の有無といふことが、英文を解釋する上に於て、その生死の權を握つておるわけであります。そこで本章に於てその大體に通じて置くことにしませう。さて動詞の種類によりまして文の述部は五種に分れるのであります。(第貳編第壹章參照)今主部、動詞、間接目的語、直接目的語といふ組合せの文から考へて行きますと、この場合の動詞は先づ、bring (ブリン)=持て來る、lend (レンド)=貸す、send (センド)=送る、give, buy (バイ)=買ふ、tell (テル)=告ぐ、show (ショオウ)=示す、teach (ティーチ)=敎ふ、ask (アースク)=問ふ等であります。そこで

giveのやうな種類の動詞でありましたならば、その後に間接目的語、續いて直接目的語が存在してゐる

と見て先づよいわけであります。

25. They send their customers the milk.

(語句) their (ゼエア)=彼等の
customers (かスタマズ)=customer (かスタマ)+s(ズ)=御得意+方=御得意方

They send their customers the milk.

(譯文) 彼等は彼等の御得意方にあの乳を送る=彼等は御得意先へこの乳を送ります。

次に主部、動詞、動詞の目的語、目的格補語といふ組合せの文を考へますと、この場合の動詞は主として、

make (メイク)=する、call (コール)=呼ぶ、think, consider (カンしダ)=思ふ、believe (ビりーヴ)=信ず、keep (キープ)=保つ等であります。そこで

makeのやうな種類の動詞でありましたならば、その後に動詞の目的語、續いて目的格補語が存在してゐる

と見て先づよいわけであります。

26. They keep their bodies clean.

(語句) bodies (ぼディズ)=身體共
clean (クリーン)=清潔なる

They keep their bodies clean.

(譯文) 彼等は彼等の身體を清潔なるに保つ=彼等は身體を清潔にしてゐる。

今度、主部、動詞、主格補語といふ組合せの文を考へますと、この場合の動詞は主として、is, am, are, be (ビー)=ある、become (ビかム)=なる、grow, get (ゲト)=なる、look (ルク)=見ゆ、seem (シーム)=思はる、smell, feel (フィール)=感ず等であります。そこで

beのやうな種類の動詞でありましたならば、その後に主格補語が存在してゐる

と見て先づよいわけであります。

さアそれだけわかりますと、主部、動詞だけの組合せと、主部、動詞、動詞の目的語といふ組合せの文だ

け殘つたわけであります。しかしこの場合は一目してわかることでありますから、別に詮議立をする必要もありますまい。

27. Birds fly.

（語句） fly（フライ）＝飛ぶ

Birds fly.

（譯文） 鳥は飛ぶ。

28. The dogs run fast.

The dogs run fast.

（譯文） あの犬共は疾く走る＝あの犬はよく走る。

29. The lion killed a tiger.

（語句） lion（らイアン）＝獅子
killed（キルド）＝kill（キル）＋ed（ド）＝殺す＋した＝殺した
tiger（たイガ）＝虎

The lion killed a tiger.

（譯文） あの獅子は一つの虎を殺した＝あの獅子は虎を一頭やつつけました。

ところが、如何にgiveのやうな種類の動詞でありましても、必ずその後に間接目的語、續いて直接目的語が存在するとは限らないのであります。例へば

30. They send the milk to their customers.

（語句） to（トウー）＝（後カラ譯シ上ゲ）へ

のやうな文になりますと、they は主部、send は動詞、the は milk の修飾語、milk は動詞の目的語、their は customers の修飾語、そうして to their customers 全體で send といふ動詞につく修飾語であります。そこで解剖の場合には

They send the milk (to their customers.)

となります。恰度第貳編の第一章、例題 15, 16, 17 で述べましたと同じやうに、それ全體を括弧で括り、そのつくべき場所へ引いて行くこととなります。しかし、第貳編の第一章、例題 15, 16, 17 の場合は括弧の中にまた主部、述部の關係が存在してゐたのでありますが、只今の例の如き場合には括弧の中では決して主部、述部の關係が成立してはおりませぬ。そこで英文解釋としては

いくつかの語が集つて主部、述部の關係をなして文の要素となるものと、いくつかの語が集つてゐても、主部、述部の關係を成さずして、しかも文の要素をなしてゐるものがある

といふことを知らなければなりませぬ。このやうな、いくつかの語が集つてゐても、主部、述部の關係を成

さずして、しかも文の要素をなしてゐるものがあるため、また make のやうな種類の動詞でありましても、その後に動詞の目的語、續いて目的格補語といふ關係にならなくなることが起つて來るのであります。例へば。

31. My mother made a soldier of me.

（語句） of（オヴ）＝（後カラ譯シ上ゲ）ル

My mother made a soldier (of me.)

（譯文） 私の母は私を一つの軍人にした＝母は私を軍人にしました。

定義

28. （主部＋動詞）といふ文の動詞を**完全自動詞**と言ふ。
29. （主部＋動詞＋主格補語）といふ文の動詞を**不完全自動詞**と言ふ。
30. （主部＋動詞＋動詞の目的語）といふ文の動詞を**完全他動詞**と言ふ。
31. （主部＋動詞＋動詞の目的語＋目的格補語）といふ文の動詞を**不完全他動詞**と言ふ。
32. （主部＋動詞＋間接目的語＋直接目的語）といふ文の動詞を**授與動詞**と言ふ。
33. いくつかの語が集つて主部、述部の關係を成しつゝ文の要素となつてゐるものを**節**と言ふ。
34. いくつかの語が集るも主部、述部の關係を成さずして文の要素となつてゐるものを**句**と言ふ。

要領

28. 文の動詞が授與動詞であるなれば、その後に間接目的語、續いて直接目的語の存在するを原則とする。
29. 文の動詞が不完全他動詞であるなれば、その後に動詞の目的語、續いて目的格補語の存在するを原則とする。
30. 文の動詞が不完全自動詞であるならば、その後に主格補語の存在するを原則とする。
31. 文の動詞が授與動詞、不完全他動詞、不完全自動詞でないとするなれば、その動詞は完全自動詞か、完全他動詞である。しかも、動詞の次に動詞の目的語があれば、その動詞は完全他動詞であり、なければ、その動詞は完全自動詞である。
32. 文中の節を見付けること。
33. 文中の句を見付けること。
34. 節なり、句なりのつく場所を定めること。

さて動詞は必ず『何々である』『何々をする』となつてゐるものではなく、時には『何々であつた』『何々をした』、時には『何々であろう』『何々をするだろう』となつてゐることがあります。つまりその動作なり、狀態なりがあつた時期を動詞の形を變化させて表はすのであります。先づ

動詞が辭書にあるまゝの形であつたならば、『何々である』『何々する』といふやうに譯す

のであります。例へば

32. Teachers teach.

（語句） teachers（てィーチアズ）＝teacher（てィーチア）＋s（ズ）＝教師＋共＝教師共

Teachers teach.

の teach は辭書にあるまゝの形であります。そこで

（譯文） 敎師共は敎ふ＝敎師は敎へる。

と譯すのであります。ところが

33. A teacher teaches.

（語句） teaches（ティーチズ）＝teach（ティーチ）＋es（イズ）＝敎ふ

A teacher teaches.

の『敎ふ』といふ動詞の teaches は辭書を見てもありませぬ。これは語句のもとで說明してある通り、teach＋es といふ關係なのであります。どうしてそれでは teach に es を加へたのでありませうか。すると英語では

主部が一つの事物を表はすものでありますと、その動詞に s なり、es を加へます。しかし邦語に譯す場合には何の變りなく、『何々する』と譯すのであります。

勿論、『何々である』の『ある』といふ動詞は主部の如何によつて、最初から、is, am, are, be といふやうに形が定つてゐるので、この s を加へるの、es を加へるのといふ問題は起さないのであります。この種のものに has と have とがあります。これも最初からどういふ主部には has, どういふ主部には have を用ふると定つて

おるのであります。そこで is, am, are, be, have, has 以外の動詞だけが上のやうな定めになつておるわけであります。しかし上述の通り、s があろうと、es があろうと譯語には變りはないのであります。上例では主部が a teacher で『一人の敎師』であるから動詞の teach に es がついたのであります。そうして動詞に s なり es なりのつく場合には、動詞の語尾が teach のやうに ch, または sh, s などでありますと es（イズ）がつき、その他の場合はたゞ s だけつくのであります。そこで上例の譯文は

一つの敎師が敎ふ＝一人の敎師が敎ふ。

となるのであります。

更に面白いことには、is, am, are, be, have, has 以外の動詞は疑問文及び否定文に於ては do（ドウー）といふ語を前に置きます。そうして主語が一つの事物を表はすものでありますと、その do は does（ダズ）となつております。そうしてもはや動詞の方へは s なり es を加へませぬ。しかし

do や does は譯す必要がない

のであります。

34. Do you know him?

（語句） him（ヒム）＝彼を

Do you know him?

（譯文） 君は彼を知つてゐるか。

35. No, I do not know him.

No, I do not know him.

（譯文） いゝえ、私は彼を知つてゐるない＝いゝえ、私はあの人を知つておりませぬ。

36. He does not know them.

He does not know them.

（譯文） 彼は彼等を知つてゐるない＝彼はあの人達を知らない。

この do や does と同じやうに、can（ケアン）＝ことが出來る、may（メイ）＝かもしれぬ（又ハしてもよい）、must（マスト）＝せねばならぬ（又ハに違ひない）などが動詞の前に置かれておることがあります。これら

can, may, must は本動詞の方から譯して後、これらの譯へ廻はる

べきであります。そうしてこの can, may, must は主部が一つの事物であろうと、二つ以上の事物であろうと s や es をつけるやうなことはないのであります。序に may には『かもしれぬ』『してもよい』、must にも『せねばならぬ』『に違ひない』と二つ譯し方がありますが、どういふ場合にどういふ譯をつけるのであろうかと心

配でありませう。勿論、今少し英語の學力が進まれましたならば、その邊はおわかりになりますが、こゝに諸君にとつて便利な見分け方は、かりに may とありましたならば、一度『かもしれぬ』と譯して御覽になり、また一度『してもよい』と譯して御覽になるに限ります。そうして『かもしれぬ』といふ方がこの文では合ふか、『してもよい』の方が合ふかと御考へになればよいのであります。つまり

譯語がいくつもある場合には、一々その譯語で文を譯して見、一番前後が合ふ譯を採用する

といふことが英文解釋上の一つの大切な奥の手一極意一秘訣であります。

37. I can bend my fingers.

（語句） bend（ベンド）＝曲げる
fingers（フィンガズ）＝finger（フィンガ）＋s（ズ）＝指＋共＝指共

I can bend my fingers.

（譯文） 私は私の指共を曲げることが出來る＝私は指が曲げられる。

38. He may be honest.

He may be honest.

（譯文） 彼は正直なるであるかもしれぬ＝彼は正直かもしれぬ。

39. May I go there?

（語句） go（ゴウ）＝行く

May I go there?

（譯文） 私はあそこへ行くしてもよいか＝あそこへ行つてもよいですか。

40. You must do so.

（語句） do＝爲す。疑問文、否定文等に出る do 又は does は次に本動詞が來るが、この do は前に must こそあれ、do の次に本動詞がない。即ち do 自體が本動詞。

so（ソウ）＝そう

You must do so.

（譯文） 君はそう爲すせねばならぬ＝君はそうせねばならぬ。

41. It must be true.

It must be true.

（譯文） それは眞のであるに違ひない＝それは本當に違ひない。

ところで面倒なことは、cannot（can not でも同じ）となると『ことが出來ない』ばかりでなく、『筈がない』

といふ意味にもなります。これは前述の解釋の奥の手で解決がつきますが、must not となりますと『してはならぬ』と禁止をするのでありまして、

A＝B
C＝C

ならば

A＋C＝B＋C

であるから、

must＝せねばならぬ
not＝ない

だから、

must not＝せねばならぬない
＝せねばならぬといふことはない

とか

must＝に違ひない
not＝ない

だから

must not＝に違ひないない
＝に違ひないといふことはない

などと考へるわけには行きませぬ。

42. You must not be lazy.

（語句） lazy（れイズイ）＝怠惰なる

You must not be lazy.

（譯文） 君は怠惰なるであるしてはならぬ＝怠惰ではいけませぬ。

43. It cannot be true.

It cannot be true.

（譯文） それは眞のである筈がない＝それは眞の筈はない。

定 義

35. 動詞が辭書の方のまゝであると、その動詞は**現在形**だと言ふ。
36. Is, am, are, be, have, has 以外の動詞が疑問文、又は否定文中に存在するときには do（又は does）を前に有つ。かゝる do, may, can, must 等を**助動詞**と言ひ、本來の『何々する』てふ動詞を**本動詞**と言ふ。

要 領

35. 現在形の動詞は『何々である』『何々する』といふ具合の譯し方になる。
36. 主部が一つの事物を表はすために、現在形の動詞につく s 又は es は譯さず。
37. Do 又は does は譯さず。
38. Can, may, must なる助動詞は本動詞を譯してから譯す。
39. 譯語がいくつもある場合には、一々その譯語で文を譯して見た上、前後の一番合ふものを採用する。

次に『明日參ります』、卽ち『明日行く』と言へば『行く』と言ふ動作は『明日』といふ未來（みらい）に行はれるのであります。この場合、英語では、必ず will（ウイル）とか、shall（シエアル）といふ助動詞を『行く』

といふ go なる本動詞の前に置くのであります。そこで

will, shall は譯すに及ばぬ

といふことになります。何故かなれば、日本語では『明日行く』と『行く』に變化が起らないからであります。

44. The little beans will grow.

（語句） beans（ビーンズ）＝bean（ビーン）＋s（ズ）＝豆＋共＝豆共
grow＝成長する

The little beans will grow.

（譯文） この豆共は成長する＝この豆は大きくなる。

45. By and by I shall die.

（語句） by（バイ）and by＝やがて
die（ダイ）＝死ぬ

(By and by) I shall die.

（譯文） やがて私は死ぬ。

ところが聞手（話を聞いてゐる人）とか、話手（話をしてゐる人）聞手以外の人（噂にのつてゐる人）が主部であつて、その動詞に shall がついておりますと

主部に ニ といふ テニヲハ を與へ、shall と本動詞を纏めて『何々させる』と譯さねばなりませぬ。

例へば

46. You shall die.

You shall die.

（譯文） 君に死ぬさせる＝君を死なせる＝君を殺す。

といふことになります。また

47. He shall have the book.

（語句） book（ブク）＝本

He shall have the book.

（譯文） 彼にあの本を持つてゐるさせる＝彼にあの本を所有させる＝彼にあの本をやる。

となるのであります。同樣に話手が主部となつてゐて、will が助動詞となつておりますと、

この will は『しやう』と譯す

ことになります。

48. I will do my duty.

（語句） duty（デゥーティ）＝義務

I will do my duty.

（譯文） 私は私の義務を爲すしやう＝私は自分の義務を果さう。

さて疑問文になりますと、話手、及び話手聞手外の人が主部で、shall が助動詞となつておれば、やはり

主部に ニ といふ テニヲハ を與へ、shall と本動詞を纏めて『何々させる』と譯す

ことになります。

49. Shall he have it?

（語句） it＝それを

Shall he have it?

（譯文） 彼にそれを持つてゐるさせるか＝彼にそれを所有させるか＝彼にそれをやりますか。

50. Shall I go there?

Shall I go there?

（譯文） 私にあそこへ行くさせるか＝あそこへ行きませうか。

同樣に聞手が主部で、will が助動詞となつておりましたならば、

この will は『する』と譯す

のであります。

61. Will you go there?

Will you go there?

（譯文） 君はあそこへ行くするか＝君はあそこへ行くか。

定義

37. 話手を**第一人稱**、聞手を**第二人稱**、話手聞手以外の人、即ち噂さにのつてゐる人を**第三人稱**と言ふ。

38. 助動詞 will 又は shall の存在する動詞は**未來形**といふ。

要領

40. 原則として、文の種類を問はず、will, shall は譯さぬ。

41. 但し平敍文に於て shall なる助動詞が用ひられ、主部が第二人稱又は第三人稱の場合、主部にニなるテニヲハを與へ、shall と本動詞をくるめて『何々させる』と譯す。

42. また疑問文に於て shall なる助動詞が用ひられ、主部が第一人稱又は第三人稱の場合、主部にニなるテニヲハを與へ、shall と本動詞をくるめて『何々させる』と譯す。

43. 平敍文の主部が第一人稱で、will といふ助動詞があれば、この will は『しやう』と譯す。

44. 疑問文の主部が第二人稱で、will といふ助動詞があれば、この will は『する』と譯す。

最後に『僕は昨日淺草へ行つた』といへば、『行く』といふ動作は『昨日』といふ過去(かこ)に行はれたのであります。英語では、次に掲げますところの動詞以外は、辭書にあるまゝの形のあとへ ed (イッド) を加へて、その動作が過去に行はれたことを示します。例へば kill は『殺す』でありますが、kill+ed=killed となりますと『殺した』と過去に『殺す』といふ動作の行はれたことを示すやうになります。但し次に掲げる動詞はそうは行かないのであります。そこで下表は全部、是非とも、暗記をなさらねばならぬ動詞であります。その際過去分詞形と書いたものがありますが、これは直に次

章で必要なものでありますから、一所に暗記を願ひます。それに三つならべた方が調子よく暗記が出來るのであります。そうして原形といふのは辭書にあるまゝの形、即ち現在形であります。

原形	過去形	過去分詞形
be (is, am, are =ある	was (were)	been (ビーン)
begin (ビギン)=始む	began (ビげアン)	begun (ビガン)
bite (バイト)=嚙む	bit (ビト)	bitten (びトン)
blow (ブロウ)=吹く	blew (ブルー)	blown (ブロウン)
bring (ブリン)=持つて來る	brought (ブロート)	brought (ブロート)
build (ビルド)=建てる	built (ビルト)	built (ビルト)
burn (バーン)=燒く	burnt (バーント)	burnt (バーント)
buy (バイ)=買ふ	bought (ボート)	bought (ボート)
cast (カースト)=投げる	cast (カースト)	cast (カースト)
catch (ケアチ)=捕へる	caught (コート)	caught (コート)
come (カム)=來る	came (ケイム)	come (カム)
cut (カト)=切る	cut (カト)	cut (カト)
do (ドウー)=爲す	did (ディド)	done (ダン)
drink (ドリンク)=飲む	drank (ドレアンク)	drunk (ドランク)
drive (ドライヴ)=驅る	drove (ドロウヴ)	driven (ドリヴン)
eat (イート)=食ふ	ate (エイト)	eaten (いートン)
fall (フォール)=落る	fell (フエル)	fallen (フォーラン)
feel (フイール)=感ずる	felt (フエルト)	felt (フエルト)
find (ファインド)=見出す	found (ファウンド)	found (ファウンド)
fly (フライ)=飛ぶ	flew (フルウー)	flown (フロウン)
forget (ファげと)=忘れる	forgot (ファごト)	forgotten (ファごトン)
get (ゲト)=得る	got (ゴト)	got (ゴト)
give (ギヴ)=與へる	gave (ゲイヴ)	given (ぎヴン)
go (ゴウ)=行く	went (ウエント)	gone (ゴン)
grow (グロウ)=成長す	grew (グルウー)	grown (グロウン)
hang (ヘアン)=掛ける	hung (ハン)	hung (ハン)
have (has)=持つ	had (ハド)	had (ハド)

hear（ヒア）=聞く	heard（ハード）	heard（ハード）
hit（ヒト）=打つ	hit（ヒト）	hit（ヒト）
hold（ホウルド）=保つ	held（ヘルド）	held（ヘルド）
hurt（ハート）=害する	hurt（ハート）	hurt（ハート）
keep（キープ）=保つ	kept（ケプト）	kept（ケプト）
know（ノウ）=知る	knew（ニウー）	known（ノウン）
lay（レイ）=置く	laid（レイド）	laid（レイド）
leave（リーヴ）=去る	left（レフト）	left（レフト）
lend（レンド）=貸す	lent（レント）	lent（レント）
let（レト）=せしめる	let（レト）	let（レト）
lose（ルーズ）=失ふ	lost（ロースト）	lost（ロースト）
make（メイク）=作る	made（メイド）	made（メイド）
meet（ミート）=出合ふ	met（メト）	met（メト）
pay（ペイ）=拂ふ	paid（ペイド）	paid（ペイド）
put（プト）=置く	put（プト）	put（プト）
read（リード）=讀む	read（レド）	r ad（レド）
ring（リン）=鳴る	rang（レアン）	rung（ラン）
rise（ライズ）=起る	rose（ロウズ）	risen（リズン）
run（ラン）=走る	ran（レアン）	run（ラン）
say（セイ）=言ふ	said（セド）	said（セド）
see（スイー）=見る	saw（ソオー）	seen（しーン）
sell（セル）=賣る	sold（ソウルド）	sold（ソウルド）
send（センド）=送る	sent（セント）	sent（セント）
show（シオウ）=示す	showed（シオウド）	shown（シオウン）
shut（シアト）=閉づ	shut（シアト）	shut（シアト）
sing（シン）=歌ふ	sang（セアン）	sung（サン）
sit（シト）=坐す	sat（セアト）	sat（セアト）
speak（スピーク）=語る	spoke（スポウク）	spoken（スぽウクン）
stand（ステアンド）=立つ	stood（ストウド）	stood（ストウド）
steal（ステイール）=盜む	stole（ストオウル）	stolen（ストおウルン）
strike（ストライク）=打つ	struck（ストラク）	struck（ストラク）
swim（スウイム）=泳ぐ	swam（スウエアム）	swum（スワム）
take（テイク）=取る	took（トウク）	taken（てイクン）

teach（ティーチ）=敎へる	taught（トオート）	taught（トオート）
tell（テル）=告ぐ	told（トウルド）	told（トウルド）
think（ス[illegible]インク）=思ふ	thought（ス[illegible]オート）	thought（ス[illegible]オート）
throw（ス[illegible]ロウ）=投げる	threw（ス[illegible]ルー）	thrown（ス[illegible]ロウン）
write（ライト）=書く	wrote（ロウト）	written（リトン）
become（ビかム）=成る	became（ビけイム）	become（ビかム）
mistake（ミスてイク）=間違ふ	mistook（ミストうク）	mistaken（ミスてイクン）
understand（アンダスてアンド）=了解す	understood（アンダストうド）	understood（アンダストうド）

さて

過去形の動詞は常に『何々した』と譯す

と立派に譯がついてしまひます。これから實例に當つて見ませう。

62. Thus the greedy dog lost his dinner.

（語句） thus（ヅアス）=かくのごとく
greedy（グリーディ）=强慾な
dinner（でイナ）=御馳走

Thus the greedy dog lost his dinner.

（譯文） かくのごとくあの强慾な犬は彼の御馳走を失ふした=かうしてかの强慾な犬は御馳走を失くした。

63. Then I took them to the post-office and posted them.

（語句） then（ヅエン）＝それから
them＝彼等を
to＝（後カラ譯シ上ゲ）へ
post-office（ぽウストオフイス）＝郵便局
posted（ポウスティド）＝post（ポウスト）＋ed（イツド）
＝投函す＋した＝投函した

Then I took them (to the post-office)
and posted them.
(I)

勿論 posted の主部はIでありますが、前後の關係上、そのことは明瞭であり、合文となつてゐるため、Iを省略してあるのであります。

（譯文） それから私は彼等を郵便局へ取るしたそうして彼等を投函するした＝それから私はそれを郵便局へ持つて行き、投函致しました。

定義

39. ある過去に動作が行はれたことを示す動詞は**過去形**をなしてゐるといふ。
40. 辭書に出てゐるまゝの動詞の形を**原形**といふ。
41 原形に ed を加へて過去形及び過去分詞形を作るものを**規則動詞**と言ひ、然らざるものを**不規則動詞**と言ふ。
42. 動詞が原形、過去形及び過去分詞形に變化することを**動詞の活用**と言ふ。

要領

45. 不規則動詞の活用を暗記しておかればならぬ。
46. 暗記せる不規則動詞以外の動詞は規則動詞である。
47. 過去形の動詞は常に『何々した』と譯す。

練習題 4

次の英文を日本文に譯して御覽なさい。

(1) He looked into the water, and there he saw another dog.

（語句） look（ルク）＝見る
into（いントウ）＝（後カラ譯シ上ゲ）の内へ
water（ウおータ）＝水

(2) But soon autumn will be here.

（語句） soon（スウーン）＝遠からず
autumn（おータム）＝秋
here（ヒア）＝ここに

(3) They dig deep wells in the sand.

（語句） dig（ディグ）＝掘る
deep（ディープ）＝深き
wells（ウエルズ）＝well（ウエル）＋s（ズ）＝井戸＋共＝井戸共
in（イン）＝（後カラ譯シ上ゲ）の中に
sand（セアンド）＝砂

(4) Does he like in Japan? No, he does not live in Japan.

（語句） live（リヴ）＝住むである
Japan（ヂアペアン）＝日本。國名は文中の何處に在つても大文字で書き出す。

(5) The sun gives us light.

（語句） sun（サン）＝太陽
us（アス）＝私達に
light（ライト）＝光

(6) We shall die when we are old.

（語句） are＝なる
old（オウルド）＝年とつた

(7) I will die for our country.

（語句） for＝（後カラ譯シ上ゲ）の爲に
country（カントリ）＝國

(8) The cook cooks our food in the kitchen.

（語句） cook（クク）＝料理番
cooks（ククス）＝cook（クク）＋s（ス）＝料理する
food（フード）＝食物
kitchen（きチン）＝臺所

(9) You shall have the picture.

(10) It cannot be true. It must be false.

（語句） false（フオールス）＝僞の

第二章 動詞(二)

『彼は小說を讀む』と『彼は小說を讀むでゐる』とでは全く意味が違ひます。『彼は小說を讀む』といふことは何も今小說を讀むでゐるとは必しも限つてはおりませぬ。遊んでゐても、他の仕事をしてゐても、彼が平素小說を讀むのであつたならば差支がないのであります。ところが『彼は小說を讀むでゐる』といふ方は、今現に小說を讀むでおるのであります。そうして平素讀むかどうかといふことには言及しておらぬのであります。ところで『彼は小說を讀む』の『讀む』は『何々する』の動作で、現在であります。しかし『彼は小說を讀むでゐる』の『讀むでゐる』は『今讀むでゐる』といふことで、

英語では be, am, are, is の次に(原形)＋ing（イン）といふやうな形で表はしております。そこで

be, am, is, are の次に(原形)＋ing が存在したならば、『何々してゐる』といふ譯をつける

ことになります。勿論『彼は小說を讀むでゐる』といふことが、『彼は小說に對する知識がある』といふ場合にはこの be, is, am, are＋(原形 ing)は用ひてないのでありまして、『今何々してゐる』の意味に限るのでありますから、この『何々してゐる』といふ譯も『今何々してゐる』の『何々してゐる』と思はねばなりませぬ。

ところで『彼は小說を讀むでゐた』となれば、ある過去に於て『小說を讀む』といふ動作が行はれてゐたことを表はしております。この場合、英語では was, were の次に(原形)＋ing を置くのであります。そこで

was, were の次に(原形)＋ing が存在したならば、『何々してゐた』といふ譯をつける

ことになります。同じ理論で『彼は小說を讀むでゐる』でも、ある未來の時に『小說を讀む』といふ動作が行はれることを表はすことになれば、英語では will（又は shall）be＋(原形 ing) の形を成すことになります。勿論第參編の第一章によりまして、

will（又は shall）be の次に（原形）＋ing が存在したならば、ある未來

の時にある動作が行はれてゐるといふことを示すのではありますが、譯し方は『何々してゐる』でよいわけ

であります。そこでリーダから實例を採つて當つて見ませう。

64. I am reading a novel.

（語句） novel（のヴアル）＝小說

I am reading a novel.

（譯文） 私は一つの小說を讀むしてゐる＝私は小說を讀むでゐる。

55. He was drawing a picture at that time.

（語句） drawing（ドろーイン）＝draw（ドロー）＋ing（イン）＝畫く＋ing
time（タイム）＝時
that＝あの
at（アト）＝（後カラ譯シ上ゲ）に

He was drawing a picture (at that time.)

（譯文） 彼はあの時に一つの繪を畫くしてゐた＝あの時繪をかいてゐた。

66. I shall be waiting for you at the station to-morrow morning.

（語句） waiting（ウえィテイン）＝wait（ウエイト）＋ing（イン）

＝待つ＋ing
wait for～＝～を待つ
station（スてイシアン）＝停車場
to-morrow（タもロウ）morning（もーニン）＝明朝

I shall be waiting (for you) (at the station) (to-morrow morning.)

（譯文） 私は君をあの停車場で明朝待つしてゐる＝僕は明朝停車場で待つてゐてあげやう。

定義

43. ある動作が現在まさに行はれつゝあることを示す動詞の形を**現在進行形**と言ふ。
44. ある動作が過去のあるときに行はれつゝあつたことを示す動詞の形を**過去進行形**と言ふ。
45. ある動作が未來のあるときに行はれつゝあることを示す動詞の形を**未來進行形**と言ふ。

要領

48. be, am, is, are＋（原形 ing）は現在進行形であつて、『何々してゐる』と譯す。
49. was, were＋（原形 ing）は過去進行形であつて、『何々してゐた』と譯す。
50. will（又は shall）be＋ 原形＋ing）は未來進行形であつて、『何々してゐる』と譯す。

今 New（ニウー）Crown（クラウン）Readers（りーダズ）の第一卷の 155 頁などを見ますと

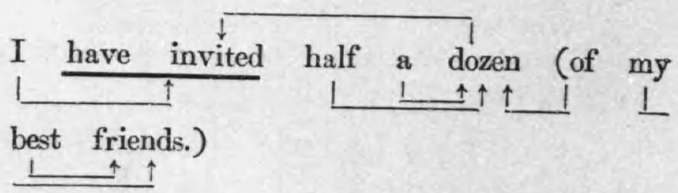
67. I have invited half a dozen of my best friends.

（語句）invited（いンヴアイテイド）＝invite（いンヴアイト）の過去分詞。語尾が e で終つてゐると d だけを加へて過去分詞にする。
half（ハーフ）＝半分の
of（オヴ）＝（後カラ譯シ上ゲ）の
my（マイ）＝私の
best（ベスト）＝最もよき
friends（フレンヅ）＝friend（フレンド）＋s（ズ）＝友人＋共＝友人共
dozen（だズン）＝打（ダース）＝十二個

といふ文があります。この文の have を『持つてゐる』と譯したのでは何の話だかわからなくなつてしまひます。そうして英語では

have のすぐ次の動詞は必ず過去分詞であります。この have（又は has）＋過去分詞は『何々してしまつた』『何々したことがある』『何々して來た』などと譯さねばならぬ

のであります。（要領 39 參照）つまり 67 番の have invited で動詞をなしておるのであります。そこで



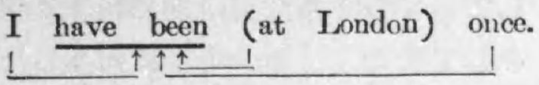
（譯文）私は私の最もよい友人共の半分の一つの打（ダース）を招くしてしまつた＝私は一番仲

のよいお友達を六人御招待致しました。

となるのであります。このやうに have＋過去分詞といふ動詞の形は各Readerに澤山出ておりまして、卷の二、卷の三と進む程餘計に出て來る大切な形であります。

68.　I have been at London once.

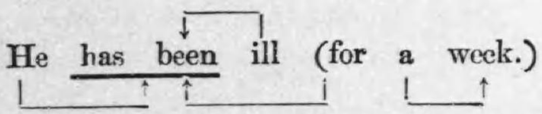
（語句）once（ワンス）＝一度



（譯文）私は倫敦に一度あるしたことがある＝私は倫敦に一度あつたことがある＝私は一度倫敦におつたことがある＝私は一度倫敦に行つたことがある。

69.　He has been ill for a week.

（語句）ill（イル）＝病める
for＝（後カラ譯シ上ゲ）の間
week（ウイーク）＝週



（譯文）彼は一週の間病めるであるして來た＝一週間ずつと病氣でした。

『あの人が停車場に着いた時は汽車は出てしまつてゐた』といふやうな文を考へて見ますと、『あの人が停車場に着いた時』といふある過去の時には、『汽車は出てしまつてゐた』と『出る』といふ動作が完了してしま

つてゐたのであります。このやうにある過去の時に、ある動作が行はれてしまつてゐたとか、ある動作がある過去の時まで續いて來たとか、ある過去の時までにある經驗をしたとかいふ場合には、had＋過去分詞といふ形に動詞はなつております。そこで

had＋過去分詞は『あの時には何々してしまつてゐた』、『あの時まで何々して來た』、『あの時迄に何々したことがあつた』と譯す

のであります。

70. When he reached the station, the train had already started.

（語句） reached（リーチト）＝reach（リーチ）＋ed（ト）＝到着する＋した＝到着した
already（おールレディ）＝既に
started（スターティド）＝start（スタート）＋ed（イッド）＝出立する＋した＝出立した

(When he reached the station,) the train had already started.

（譯文） 彼があの停車場に到着するした時あの時にはあの列車は既に出立するしてしまつてゐた＝あの人が停車場に着いた時は汽車は既に出てしまつてゐた。

71. My mother had been ill a long time.

（語句） long＝長き

My mother had been ill (a long time.)

（譯文） 私の母は一つの長き時病めるであの時まであるして來た＝母はそれまで久しく病むでゐた。

72. Had you ever been at New York?

（語句） ever（えヴァ）＝その時まで
New York（ヨーク）＝紐育市

Had you ever been (at New York)?

（譯文） 君はその時まであの時まで紐育市にあるしたことがあつたか＝君はあの時までに紐育市にあつたことがあつたか＝君はそれまでに紐育へ行つたことがあつたか。

今度はある未來の時にある動作が完了してしまつてゐるとか、ある未來の時までである動作が續いて行くとか、ある未來の時までに經驗するといふやうな場合には、will（又は shall）have＋過去分詞の形を動詞は成すものであります。そこで

will（又は shall）have＋過去分詞は『その時には何々してしまつてゐる』、『その時までに何々して行く』、

『その時までに何々したことになる』
と譯す

ことになるのであります。

73. I shall have finished my task by the time school begins.

(語句) task (タースク)=仕事
by the time= 後カラ譯シ上ゲ)までに
begins=begin+s

I shall have finished my task (by the time school begins.)

(譯文) 私は學校が始るまでにその時には私の仕事を了へるしてしまつてゐる=學校が始るまでにはこの仕事は了へてしまつております。

74. I shall have lived in London for five years by the end of this year.

(語句) for=(後カラ譯シ上ゲ)の間
five (フアイヴ)=五つの
years (イアーズ)=year (イアー)+s (ズ)=年+共=年共
by=(後カラ譯シ上ゲ)まで
end (エンド)=末
of=(後カラ譯シ上ゲ)の

I shall have lived (in London)(for five years) [by the end (of this year).]

(譯文) 私は倫敦の中に五つの年共の間この年のあの末までその時まで住むして行く=私は倫敦に五年間今年の末まで住むで行く=今年の末で僕は倫敦に五年間住むだことになる。

75. By the time you succeed in your undertaking, you will have seen something of the world.

(語句) succeed (サクしード)=成功す
your (イウア)=君の
undertaking (アンダてイキン)=事業
something (さムスイン)=何か
world (ワールド)=世間

[By the time you succeed (in your undertaking),] you will have seen something (of the world.)

(譯文) 君が君の事業の中に成功するまでにその時までに君はあの世間の何かを見るしたことになる=君がその事業に成功するまでに君

は世間の何かを見たことになる＝君がその事業に成功するまでに多少世間を見たことにもなる。

定義

46. Have（又は has)＋過去分詞なる動詞の形を**現在完了形**と言ふ。
47. Had＋過去分詞なる動詞の形を**過去完了形**と言ふ。
48. Will（又は shall) have＋過去分詞なる形を**未來完了形**と言ふ。

要領

51. 現在完了形は『何々してしまつた』『何々したことがある』『何々して來た』と譯す。
52. 過去完了形は『あの時には何々してしまつてゐた』『あの時までに何々したことがあつた』『あの時まで何々して來た』と譯す。
53. 未來完了形は『その時には何々してしまつてゐる』『その時までに何々したことになる』『その時まで何々して行く』と譯す。

さて今迄ある動作が續いて行はれて來たといふ場合に have（又は has) been＋(原形 ing)、またある過去の時まである動作が續いて行はれて來たといふ場合に had been＋(原形 ing)、更にある未來の時まである動作が續いて行はれて行くといふ場合に will（又は shall) have been＋(原形 ing) といふ動詞の形を用ひてあることがあります。そこで

have（又は has) been＋(原形 ing) は『何々して來た』、had been＋(原形 ing) は『あの時まで何々して來た』、will（又は shall) have been＋(原形 ing) は『その時まで何々して行く』といふ譯

になるのであります。

76. I have been studying English these five years.

（語句） studying（スたディン)＝study（スたディ)＋ing＝學ぶ＋ing
English（いングリ㋣)＝英語。國語の名は何處でも大文字で書初める。
these＝是等の

I have been studying English (these five years.)

（譯文） 私は英語をこれらの五つの年共學ぶして來た＝私は英語をこの五年間學んで來た。

77. I had been waiting about an hour when he came.

（語句） waiting（ウエイティン)＝wait（ウエイト)＋ing（イン)＝待つ＋ing
about（アばウト)＝約
hour（あウア)＝時間

I had been waiting (about an hour) (when he came.)

（譯文） 私は彼が來るした時あの時まで約一つの時間待つして來た＝私は彼が來るまで約一時間待つて來た＝あれが來るまで約一時間待つてゐました。

78. It will have been raining a whole week, if it does not stop raining to-morrow.

（語句） it＝譯サズ。英語では氣候、天候等の話を言ふ場合には it を主部とするものである。

raining（れイニン）＝rain（レイヌ）＋ing（イン）＝雨降る＋ing

whole（ホウル）＝全き

if（イフ）＝（後カラ譯シ上ゲ）ならば

stop（ストプ）＝止む

raining＝雨降り

to-morrow（タもロウ）＝明日

It will have been raining (a whole week,) (if it does not stop raining to-morrow.)

（譯文） 雨降りを明日止むないならば一つの全き週その時まで雨降るして行く＝明日止まなければ丸一週間降つて行く＝明日止まなければ丸一週間降ることになる。

定義

49. Have（又は has）been＋（原形 ing）は**現在完了進行形**と言ふ。
50. Had been＋（原形 ing）は**過去完了進行形**と言ふ。
51. Will（又は shall）have be.n＋（原形 ing）は**未來完了進行形**と言ふ。

要領

54. 現在完了進行形は『何々して來た』と譯す。
55. 過去完了進行形は『あの時まで何々して來た』と譯す。
56. 未來完了進行形は『その時まで何々して行く』と譯す。

『清正は虎を殺した』と『虎は清正に殺された』とは意味に於ては同じであります。しかしその發表の方法が大層違つておりませぬか。『清正は虎を殺す』では

I. 清正 殺す 虎を

でありますが、『虎は清正に殺された』では

II. 虎は 殺された 清正に

でありまして、(I) では『殺す』といふ動作は主部がするのであります。それに反して (II) では『殺される』といふ動作は主部がされるのであります。從つて、(I) の文では主部が動詞の動作を行ひ、(II) では主部が動詞の動作を受けるのであります。そうして (I) の文で動詞の目的語であつた『虎を』が、(II) の文では主部となつて『虎は』となつてゐます。のみならず、(I) の文では『清正は』が主部であつたものが、(II) の文では動詞

の修飾語となつております。これを英文について見まするに

I. Kiyomasa killed a tiger.

II. A tiger was killed by Kiyomasa.

のやうに (I) の主部であつた Kiyomasa (きヨマサ)が (II) では by の次に置かれます。そうして by Kiyomasa で動詞の修飾語となります。次に『殺した』といふ動詞は killed でありますが、『殺された』といふ動詞は was killed であります。卽ち『何々される』といふ動詞は is, am, are, be+過去分詞となり、『何々された』といふ動詞は was (又は were)+過去分詞といふ關係になるのであります。そこで

is, am, are, be+過去分詞は『何々される』と譯し、was, were+過去分詞は『何々された』と譯す

のであります。

79. | He was loved by all. |

(語句) loved (ラヴド)=love (ラヴ)+ed=愛する+ed
by=(後カラ譯シ上ゲ)に
all (オール)=萬人

He was loved (by all.)

(譯文) 彼は萬人に愛するされた=彼は皆に愛された。

80. | His business letters are sent to the office. |

(語句) business (びズニス)=事務
office (おフイス)=事務所
letters=letter+s

His business letters are sent (to the office.)

(譯文) 彼の事務手紙共はあの事務所へ送るされる=彼の事務上の手紙は事務所へ送られる。

81. | He has been killed by a tiger. |

この文については has been は has+過去分詞でありますから現在完了形、been は be の過去分詞ですから be+過去分詞で been killed は『何々される』の意味を出しております。故に has been killed は『殺すされるしてしまつた』、卽ち『殺されてしまつた』であります。

He has been killed (by a tiger.)

(譯文) 彼は虎に喰はれてしまつた。

定義

52. Be (is, am, are, was, were, been)+過去分詞は**受働態の動詞**と言ふ。

要領

57. Be, is am, are, been+過去分詞は『何々される』と譯す。
58. Was, were+過去分詞は『何々された』と譯す。

練習題 5

次の英文を和譯すべし。

(1) She is reading an English reader.

(語句) English＝英語の
reader＝讀本

(2) I was writing a letter at that time.

(語句) writing（らイテン）＝write（らイト）＋ing（イン）＝書く＋ing

(3) Has he gone there yet? Yes, he has already gone there.

(語句) yet（イエト）＝もう

(4) Have you ever seen an aeroplane?

(語句) ever＝嘗て
aeroplane（えアロプレイン）＝飛行機

(5) I have been sick since last Sunday.

(語句) sick（シク）＝病氣の
since（シンス）＝（後カラ譯シ上ゲ）以來
last（ラースト）＝此前の
Sunday（さンデイ）＝日曜日。曜日の名は文中の何處にあつても大文字で書き出す。

(6) An exhibition will be held at Ueno Park next Saturday.

(語句) exhibition エクシびシアン）＝博覽會
held（ヘルド）＝hold（開く）の過去分詞。
Ueno（うエノ）＝上野
Park（パーク）＝公園。常 大文字で書くとは限らない。
next（ネクスト）＝今度の

Saturday（せアタデイ）＝土曜日

(7) Have they built your villa? No, they are still building it.

(語句) villa（ヴいラ）＝別莊
still（スティル）＝まだ
building（びルディン）＝build（ビルド）＋ing（イン）＝建てる＋ing

(8) Has your brother ever been abroad? Yes, he has often been abroad.

(語句) brother（ブらザア）＝兄弟
abroad（アブろード）＝海外に
often（おーフン）＝しば〻〻

(9) Some people said that he had stolen it, so he was taken before the judges.

(語句) some（サム）＝若干の
people（びーブル）＝人々
so（ソウ）＝そこで
before（ビフおー）＝（後カラ譯シ上ゲ）の前に
judges（ヂアヂズ）＝judge（ヂアヂ）＋s（ズ）＝裁判官＋共＝裁判官共

(10) Thus far the Rhine has been flowing between Switzerland and Germany.

(語句) thus＝かくのごとく
far（ファー）＝遠く
the Rhine（ライン）＝ライン川。川の名には the を冠す。
flowing（フロウイン）＝flow（フロウ）＋ing（イン）＝流れる＋ing

between（ビトウイーン）.....and——＝.....と——との間に
Switzerland（スウイツアランド）＝瑞西
Germany（ヂあーマニイ）＝獨乙

第三章 動詞（三）

『鳥なれば、飛んで行きたい』といふ『鳥なれば』は『私が一つの鳥であるなれば』でありませう。さて『私が』といふ『私』は今人間である筈であります。現在の事實が人間であるにも拘はらず、現在の事實に反した『鳥であるならば』といふ想像をしたわけであります。このやうに現在の事實に反した想像を表はす場合に英語では、if の節の中の動詞は過去形でありまして、『ある』だけは特に were を用ひております。そうして if の節でない方へは will は would（ワド）、shall は should（シウド）、can は could（クウド）、may は might（マイト）となるものであります。そこで

if の節中の過去形の動詞、were といふ動詞は『何々する』『何々である』と譯し、if のない節中の would, should, could, might, must は各々 will, shall, can, may, must と同樣に譯す

ればよいのであります。

82. If I were a bird, I would fly to you.

(If I were a bird,) I would fly (to you.)

（譯文） 私が一つの鳥であるならば私は君へ飛ぶしやう＝鳥なら君のところへ飛んで行く。

また例の有名な義太夫の文句に『去年の秋の患ひにいつそ死んでしもうたら、かうした歎きはあるまいものを』といふのがありますが、これは『去年の秋の患ひにいつそ死んでしもうたら』と過去の事實、卽ち『去年の秋の患ひに死ななかつた』といふ事實に反した想像をしたわけであります。そうしてその想像の結果、『今かうした歎きはあるまいものを』と言ふております。かういふ場合英語では、if の節中の動詞は had＋過去分詞となり、if のつかぬ節の動詞は would, should, could, might, must の次に have＋過去分詞を置きます、しかし假りに『あゝした歎きはなかつたものを』と、その想像の結果を直しますと、if のつかぬ節中の動詞は would, should, could, might, must の次に動詞の原形が置かれます。そこで

if の節中の had＋過去分詞は『何々した』『何々であつた』と譯し、if のつかぬ節中の would (should, could, might, must)＋have＋過去分詞は

過去に譯し、would (should, could, might, must)＋原形動詞は現在に譯せ

ばよいのであります。

83. If you had not helped me, I should have been drowned.

（語句） helped（ヘルプト）＝help（ヘルプ）＋ed（ト）＝助ける＋ed
me（ミー）＝私を
drowned（ドラウンド）＝drown（ドラウン）＋ed（ド）＝溺らす＋ed

(If you had not helped me,) I should have been drowned.

（譯文） 君が私を助けるしたないならば、私は溺らすされるした＝君が助けて呉れなかつたら、僕は溺らされた＝君が助けて呉れなかつたら、溺れた。

84. If you had not helped me, I should be dead.

（語句） dead（デド）＝死せる

(If you had not helped me,) I should be dead.

（譯文） 君が私を助けるしたないならば、私は死せるにある＝君が助けて呉れなかつたら、僕は死んでゐる。

定義

53. 現在の事實に反した想像を表はす場合の動詞の形を**假定法過去形**と言ふ。
54. 過去の事實に反した想像を表はす場合の動詞の形を**假定法過去完了形**と言ふ。

要領

59. 假定法過去形は『何々する』『何々である』と譯す。
60. 假定法過去完了形は『何々した』『何々であつた』と譯す。
61. would (should, could, might, must) have＋過去分詞は過去に、would (should, could, might, must)＋原形は現在に譯す。

さて should, would については特別の用法があるのであります。今

85. The baker wondered that a thief *should* break in at that time!

（語句） baker（ベイカ）＝ぱん屋
wondered（わンダド）＝wonder（わンダ）＋ed（ド）＝不思議に思ふ＋ed
thief（ス）イーフ）＝盗賊
break（ブレイク）＝犯す
in＝中に

の should は驚き、意外、悲しみを表はすとき動詞につくものでありまして、

この驚き、意外、悲しみを表はすた

めに動詞につく should は譯すに及ばない

のであります。

The baker wondered [that a thief should break in (at that time!)]

（譯文） あのぱん屋は一つの盜賊があの時に中へ犯すといふことを不思議に思ふした＝ぱん屋はそんな時刻に盜賊が入り込むで來るといふことを不思議に思ひました。

86. Children *should* obey their parents.

（語句） children（チヰルドラン）＝子供共
obey（オベイ）＝服從する
parents（ペアランツ）＝parent（ペアラント）＋s（ス）＝親＋共＝兩親

かういふ should は條理、義務などを表はすものでありまして

條理、義務を表はす should は『べきである』と譯す

のであります。

Children should obey their parents.

（譯文） 小供共は彼等の親共に服從するべきである＝子は親の命に從ふべきものである。

次に would について見ますると

87. He *would* often come here.

（語句） here＝こゝへ

He would often come here.

この would は come といふ動詞の動作が過去に於て何回も々々々繰返された動作であるといふことを示すものであります。

そこで

過去に於て繰返された動作なることを表はす would は『したものだ』と譯す。

（譯文） 彼は屢々こゝへ來るしたものだ＝よくこゝへあれは來た。

88. I would learn English hard.

（語句） learn（ラーン）＝學ぶ
English＝英語
hard（ハード）＝熱心に

I would learn English hard.

この would は希望、慾望を表はすものであります。

希望、慾望を表はす would は『し度い』と譯す

のであります。

（譯文） 私は英語を熱心に學ぶし度い＝英語を熱心に稽古したい。

要領

62. 驚き、意外、悲しみを表はす should は譯さぬ。
63. 條理、義務を表はす should は『べきである』と譯す。
64. 過去に於て繰返された動作なることを表はす would は『したものだ』と譯す。
65. 希望、慾望を表はす would は『し度い』と譯す。

最後に『ことが出來る』といふ意味の can は be (is, am, are) able（えイブル）to に、『ことが出來ない』といふ意味の cannot が be (is, am, are) unable（アねイブル）to に、『せねばならぬ』の must は have (has) to に各々代へることが出來るのであります。『ことが出來た』は could,『ことが出來なかつた』は could not でよいのでありますが、was (were) able to, was (were) unable to に代へることも出來ます。また『せねばならなかつた』は had to とするのでありまして、外に道がありませぬ。更に can, cannot, must 等のつく動詞が未來に行はれるとなれば、will (shall) be able to, will (shall) be unable to, will (shall) have to を必ず用ひてあります。そこで一般に

be able to は『ことが出來る』、be unable to は『ことが出來ない』、

have to は『せねばならぬ』と考へる

ことが大切であります。ところが

have to＝must

でありますが

have not to＝must not

ではありませぬ。前にも（第三編第一章參照）述べた通り、must not は『してはならぬ』でありまして、have not to は『には及ばぬ』となるのであります。

89. | He will have to come round again in the early morning. |

（語句） round（ラウンド）＝回りて
the（ヂイ）＝譯サズ。
early（あーリ）＝早き
morning（もーニン）＝朝

He will have to come round again (in the early morning.)

（譯文） 彼は再び早き朝の中に回りて來るせねばならぬ＝彼はまた朝早く回つて來ねばならぬ。

90. | He is able to read English. |

He is able to read English.

（譯文） 彼は英語を讀むことが出來る。

91. I was unable to do it myself.

（語句） myself（マイセルフ）＝我自ら

I was unable to do it myself.

（譯文） 私は我自らそれを爲すことが出來なかつた＝自分でやれませんでした。

要領

66. Be (is, am, are) able to は can『ことが出來る』、be (is, am, are) unable to は cannot『ことが出來ない』、have (has) to は must『せねばならぬ』と同じである。

練習題 6

英文和譯。

(1) If I were a millionaire, I would establish a Utopia in my home village.

（語句） millionaire（ミリアネア）＝富豪
establish（イスタブリッシュ）＝設立する
Utopia（イウートウピア）＝理想鄕
home（ホウム）＝故鄕の
village（ヴィリヂ）＝村

(2) You laughed at that time, but I should surely have cried, if I had been you.

（語句） laughed（ラーフト）＝laugh（ラーフ）＋ed（ト）＝笑ふ＋した＝笑ふた

surely（シュアリ）＝確かに
cried（クライド）＝cry（クライ）＋ed（ド）＝泣く＋ed

(3) One should be kind to the poor.

（語句） one（ワン）＝人
the poor（プア）＝貧民

(4) You will have to work hard hereafter.

（語句） work（ワーク）＝働く
hereafter（ヒアラーフタ）＝此後

(5) He had to give them all his money.

（語句） all（オール）＝すべての
money（マニ）＝金

(6) They are unable to walk easily, for they are lame.

（語句） walk（ウオーク）＝歩く
easily（イージリ）＝容易に
lame（レイム）＝跛（ビッコ）の

(7) Some people have eyes, but they are unable to see. They are blind.

（語句） eyes（アイズ）＝eye（アイ）＋s（ズ）＝眼＋共＝眼共
blind（ブラインド）＝盲目の

(8) Old people are unable to read without their eye-glasses, for they are far-sighted.

（語句） without（ウイヂアウト）＝（後カラ譯シ上ゲ）無しに
eye-glasses（あイグラーシズ）＝眼鏡
far-sighted（ファーさイティド）＝遠視の

(9) They are able to walk seven miles at one time.

（語句） seven（セヴン）＝七つの
miles（マイルズ）＝mile（マイル）＋s（ズ）＝哩＋共＝哩共
one＝一つの

(10) I would often read the novel in my youth.

(語句) youth (イウースス)=幼少

第四章 主部及び目的語

今迄大體に於て主部を成しておりますものは辭書を引けば出て來るものでありました。勿論Teachers teach. の teachers は teacher の方は辭書に出てはおりますが、teachers の方は出ておりませぬ。これは英語では數といふことを大層嚴重に取扱ふ結果であります。そうして數といふても一つを表はすか、二つ以上を表はすかについて嚴重なのであります。今事物の名が一つを表はす場合には、辭書にあるまゝの形でよいのであります。しかしその事物の名が二つ以上を表はす場合には辭書にある形の語尾に s なり es を加へねばなりませぬ。そうしてその語尾が ch, sh, ss, x, o の場合には es を加へるのであります。その他の場合には先づ s だけを加へるのであります。ところが邦語では一々かう嚴重にこの邊を表はしませぬ。そこで

事物の名の語尾につく s 又は es は
邦語に譯す場合先づ譯す必要がない

といふことになります。そこで邦語では

Birds sing.

でも

A bird sings.

でも、何れも『鳥が囀る』と譯してしまひます。

さてこれから主部がどうも辭書にないやうな形をしておるものを研究して行きませう。先づ第一に

92. The rich should be kind to the poor.

(語句) the rich (リチ)=金滿家

(The rich) should be kind (to the poor.)

(譯文) 金滿家は貧民へ親切なであるべきである=金持は貧乏人に親切にするべきだ。

といふやうな文の先づ rich は辭書では『金持の』と出ております。今『何々の』『何々な』といふ意味の語は『金持の人』とか、『怠惰な男』とかその次に事物の名を表はす言葉が來ないと納らぬものでありませう。そのやうな『何々の』『何々な』といふ語に the といふ語を冠しますと、『何々の人々』『何々な物』『何々』などと事物の名を表はす語となつてしまふのであります。そうして事物の名を表はす語であるため主部として存在することが出來るのであります。そこで本例の the rich なり、the poor は『金持の人々』『貧しき人々』となり、『金持』『貧民』と譯がつくのであります。

定義

55. 事物の名を表はす語は**名詞**と言ふ。

56. 『何々の』『何々な』といつて事物の名を表はす語を形容する語を**形容詞**と言ふ。

57. The＋形容詞だけで次に名詞のないものを**略名詞**と言ふ。

58. 名詞が一つのものを表はすとき**單數の名詞**、二つ以上のものを表はすとき**複數の名詞**と之を言ふ。

要領

67. 名詞の單數なるか複數なるかは譯語に表はすことは先づ要がない。

68. 略名詞は主部になる。

69. 略名詞は複數の名詞になること多く、稀に單數の名詞となる。

更に to＋動詞の原形といふものが主部になることがあります。例へば

93. To do so is wrong.

（語句） to do so＝そうすること
wrong（ロン）＝間違へる

(To do so) is wrong.

（譯文） さうすることは間違へるである＝さうしては間違つてゐる。

といつたやうな文の主部は to の次に do といふ動詞の原形が來ております。そうして do は動詞で元來があるのでありますから、so といふやうな動詞の修飾語があるわけであります。すると to do so 全體が主部になつたわけであります。さてこのやうな

to＋動詞の原形が主部をなしておりましたならば、to を『こと』と後から

ら返つて來て譯せ

ばよいのであります。

次に

94. Doing so is wrong.

（語句） doing（ドウーイン）so＝そうすること

(Doing so) is wrong.

（譯文） そうすることは間違へるである＝そうしては間違つてゐる。

のやうな文の主部は doing の如く、do といふ原形に ing のついたものがなつております。そうして do は動詞であるため、so といふやうな動詞の修飾語があるわけであります。すると doing so 全體が主部になつたわけであります。さてこのやうな

原形＋ing が主部をなしておりましたならば、『何々すること』と譯せ

ばよいわけであります。

定義

59. To＋動詞の原形を**不定詞**と言ふ。

60. 動詞の原形＋ing を**動名詞**と言ふ。

要領

70. 不定詞が主部をなしてゐる場合には to を『こと』と後から返つて來て譯す。

71. 動名詞が主部をなしてゐる場合には『何々すること』と譯す。

95. "Some one must warn them," was the cry.

(語句) some＝或る
one＝人
warn（ウォーン）＝警告す
cry＝（クライ）＝叫び

("Some one must warn them,") was the cry.

(譯文) 或人が彼等に警告すせねばならぬがあの叫びであるした＝『誰か警告してやらねばならぬ』といふのがその時の叫びだつた。

このやうに some one must warn them といふ文全體が主部をなしておることがあります。かういふ場合、例題16番のやうに *That* he is an honest is true. と that のついておる場合もあるのです。That はかういふ場合、既述の如く、後から譯し上げて來て『といふこと』と譯せばよいでせう。

これで主部となるものを研究して來ましたが、動詞の目的語、間接目的語、直接目的語、之れらは何れも、この主部となるものと同じものがなつております。そこで名詞、名詞の代りをなす語、例へば『彼女は』『私は』のやうな語、略名詞、不定詞、動名詞、節等はやはり動詞の目的語、間接目的語、直接目的語等になつ

ておるのであります。勿論、不定詞は間接目的語にはなりませぬが。そこで第壹編で述べたテニヲハのつけ方を各場合に應用したらよいわけで、例へば不定詞が主部であつたならば、『何々すること』に主部であるため『は』とか『が』とつけ、不定詞が動詞の目的語であつたならば、『何々すること』に動詞の目的語であるため『を』とか『に』とつければよいわけであります。つまり

主部、動詞の目的語、間接目的語、直接目的語、主格補語、目的格補語が如何なる形をなしておりましても、そのテニヲハは原則（第壹編參照）通り

であるといふことになります。そうして先づ不定詞は to を『こと』と後から返つて來て譯し、動名詞は『何々すること』と譯せばよいのであります。また that がその節の冒頭にあれば『といふこと』とその後から譯して來ればよいのであります。こゝを飲込んで頂くと可成英文解釋は樂になるわけであります。

96. He likes to study French.

(語句) likes（ライクス）＝like（ライク）＋s（ス）＝好む＋s
French（フレンチ）＝佛蘭西語

He likes (to study French.)

（譯文） 彼は佛蘭西語を學ぶことを好む＝彼は佛蘭西語をやるのが好きです。

97. Yesterday mother wanted me to write the invitation.

（語句） wanted（ウオンティド）＝want（ウオント）＋ed（イツド）＝欲す＋した＝欲した
invitation（インヴイテイシヨン）＝招待狀

Yesterday mother wanted me (to write the invitation.)

（譯文） 昨日母は私にあの招待狀を書くことを欲した＝昨日母は私にあの招待狀を書いて貰ひたいと申されました。

98. He likes reading.

He likes reading.

（譯文） 彼は讀むことを好む＝彼は讀書が好き。

99. We believe that he will succeed.

（語句） we（ウイー）＝私共は
believe（ビリーヴ）＝信ず
succeed（サクシード）＝成功する

We believe (that he will succeed.)

（譯文） 私共は彼が成功するといふことを信ず＝吾々は彼は成功すると信じてゐる。

100. I told him that she was honest.

I told him (that she was honest.)

（譯文） 私は彼に彼女は正直なであるしたといふことを告げるした＝私は彼女は正直であつたと彼に告げた＝彼女は正直だと彼に敎へた。

定義

61. 名詞の代りに用ふる語を**代名詞**と言ふ。例へば he『彼は』は『三夫は』『太郎は』といふ人の名、卽ち名詞の代りに用ふる語である。

要領

72. 主部、動詞の目的語、間接目的語、直接目的語、主格補語、目的格補語等は如何なる形をなしてゐても、そのテニヲハは原則通りにつける。

さて不定詞が know, learn, teach, tell, show（シオウ）＝示す等の動詞の目的語をなしておりますと、その前に what（ウオト）、how（ハウ）、where（ウエア）、when（ウエン）などの語が置かれるのを普通とするのであります。さうして

不定詞の前に what があれば、『何と』と what を譯し、不定詞の後を

次に譯し『何々する』、to へ來て『べきか』と譯すのであります。同じやうに how ならば、『如何に何々するべきか』、where ならば、『何處で何々するべきか』、when ならば、『何時何々するべきか』と譯す

のであります。

101. The baker did not know what to do.

The baker did not know (what to do.)

（譯文） あのぱん屋は何と爲すべきかを知るしたない＝ぱん屋はどうしたらよいかわからなかつた。

102. He told me where to buy it.

（語句） buy（バイ）＝買ふ

He told me (where to buy it.)

（譯文） 彼は私に何處でそれを買ふべきかを告げた＝買ふ處を敎へて呉れた。

103. I don't know how to swim.

（語句） don't（ドウント）＝do not の約つた語。

I don't know (how to swim.)

（譯文） 私は如何に泳ぐべきかを知るない＝泳ぎ方を知らぬ。

また不定詞が主部であつたり、不完全他動詞の目的語であつたりすると、その不定詞を文尾へ持つて行き、當然不定詞のあるべき場所に it を置いておくことがあります。このやうに it は不定詞を代表して用ひらるる外、it は動名詞を代表し、更に that の導く節を代表することがあります。この

it が不定詞、動名詞、節等を代表して前に置かれてある場合には、その不定詞、動名詞、節等から譯して行き it の 場所に來り、所要のテニヲハを it の 場所によつてつけ、it は譯さない

やうにすれば通じます。今實例によつて當つて見ませう。

104. It is wrong to tell a lie.

（語句） lie（ライ）＝虛言

It is wrong to tell a lie.

このやうな it は下に→印を置き、その代表する不定詞、動名詞、節の下に←を置いて解剖すると便利です。

（譯文） 一つの虛言を告げることは間違へるである＝うそを吐くのは間違つてゐる。

105. It is a bad habit smoking in bed.

(語句) bad (ベアド)=惡い
habit (ヘアビト)=習慣
smoking (スモウキン)=smoke (スモウク)+ing (イン)
=煙草を吸ふこと
bed (ベド)=寢床

It is a bad habit smoking (in bed.)

(譯文) 寢床の中に煙草を吸ふことは一つの惡い習慣である=寢床で煙草を吸ふのは惡い癖だ。

106. It is certain that we shall succeed.

(語句) certain (さーティン)=確實なる

It is certain that we shall succeed.

(譯文) 私共が成功するといふことは確實なるである=僕等が成功するのは確實だ。

107. I think it wrong to lie.

(語句) lie (ライ)=虛言をつく

I think it wrong to lie.

(譯文) 私は虛言をつくことを間違へるに思ふ=虛言をつくといふことは間違つてゐると思ふ。

108. I consider it certain that we shall succeed.

(語句) consider (カンシダ)=思ふ

I consider it certain that we shall succeed.

(譯文) 私は私共が成功するといふことを確實なるに思ふ=私共が成功するといふことは確實だと思ふ。

定義

62. 不定詞、動名詞、節等が主部をなす場合、it を代表に立て、不定詞、動名詞、節等を文尾に廻はす。かういふ場合の it を**形式上の主部**と言ふ。

64. 定義 62 と同じく不完全他動詞の目的語に不定詞、動名詞、節等がなり、それらを it が代表した場合、その it を**形式上の目的語**といふ。

要領

73. 不定詞の前に what, where, when, how 等が置かれた場合には『何と何々すべきか』、『何處で何々すべきか』、『何時何々すべきか』、『如何に何々すべきか』と譯す。

74. 形式上の主部はその代表するものから先に『は』『が』のテニチハを與へて譯し、it を譯さず、形式上の目的語はその代表するものから先に『を』『に』のテニチハを與へて譯し、it を譯さず。

最後に主部でも、動詞でも、動詞の目的語、間接目的語、直接目的語、主格補語、目的格補語の何れでも、二つ以上の語なり、句なり、節から成立ち、and, but,

or（オー）＝或は、等で繋がれておることがあります。このやうに

and, but, or で繋がれた各要素はその最後に所要のテニヲハを與へたらよい

のであります。例へば

109. Boys and girls like me very much.

(Boys and girls) like me (very much.)

（譯文） 少年共そうして少女共は私を大層大いに好む＝少年少女は私が大好きです。

110. Soon you will be men and women.

（語句） you＝君等は
men（メン）＝男共
women（ウいミン）＝女共

Soon you will be (men and women.)

（譯文） 遠からず君等は男共そうして女共になる＝やがてあなたがたも男女となられます＝やがて大人になられます。

111. The moonlight is mild and gentle.

（語句） moon'ight（むーンライト）＝月光
mild（マイルド）＝溫和な
gentle（ヂえントル）＝優雅な

The moonlight is (mild and gentle.)

（譯文） あの月光は溫和なそうして優雅なである＝月光は溫和にして優雅なり。

112. They have many hens, horses, and cows on the farm.

（語句） many（めニ）＝多くの
hens（ヘンズ）＝hen（ヘン）＋s（ズ）＝牝鷄＋共＝牝鷄共
horses（ホーシズ）＝horse（ホース）＋s（ズ）＝馬＋共＝馬共
farm（ファーム）＝農場
on（オン）＝（後カラ譯シ上ゲ）の上に

They have many (hens, horses, and cows)(on the farm.)

（譯文） 彼等はあの農場の上に多くの牝鷄共、馬共、牝牛共を有つてゐる＝あの人達はあの農場に牝鷄や、馬や、牝牛を澤山有つてゐます。

113. I can walk, run and jump with them.

（語句） jump（ヂアムプ）＝跳ぶ
with（ウイヅ）＝（後カラ譯シ上ゲ）で

I can (walk, run and jump)(with them.)

（譯文） 私は彼等で歩き、走り、そうして跳ぶことが出來る＝それで歩くことも、走ることも、跳ぶことも出來るのです。

114. | I told her that it was not good and that it was bad. |

（語句） her（ハー）＝彼女に
good（グウド）＝善き

I told her (that it was not good and that it was bad.)

（譯文） 私は彼女にそれは善きであるしたないといふことそうしてそれは惡いであるしたといふことを告げた＝彼女に善くなかつたそうして惡かつたと告げた＝彼女に善くないで、惡いと言つてやつた。

定義

64. And, but, or 等で繋れた主部、目的語、補語を各が**合成主部、合成目的語、合成補語**と言ふ。

要領

75. 合成主部、合成目的語、合成補語等はその最後に所要のテニヲハをつけること。

ところで動詞の修飾語の意味を強めて發表してある文は、疑問文、感歎文でない限りいつも文の冒頭に立つべき主部を文尾に送り、文の冒頭にはその動詞の修飾語が來、續いて動詞、最後に主部といふ順序にすることがあるのであります。例へば

115. | In the heart of the town stands the town hall. |

（語句） heart（ハート）＝中心
of＝（後カラ譯シ上ゲ）の
town（タウン）＝町
stands（ステアンヅ）＝stand（ステアンド）＋s（ズ）＝立つ＋s
hall（ホール）＝會堂

[In the heart (of the town)] stands the town hall.

（譯文） あの町のあの中心の中にあの町會堂が立つ＝町の眞中に町會堂が立つてゐる。

要するに強く發表する語句は文頭に置かれるのでありますが、それが動詞の修飾語でない限り、主部と動詞の位置の換へられることは少ないのであります。例へば

116. | This I said to her. |

This I said (to her.)

（譯文） これを私は彼女へ言ふた＝このことを彼女に言つてやつた。

のやうな文では動詞の目的語である this を强く發表するため文の冒頭に置いたわけであります。しかし主部と動詞の位置には變りがありませぬ。

また命令文で主部の you を省きましたが、會話體の文とか、日記體の文とか、或種の文體のものでは前後の關係が判つきりしておりさへすれば、その主部は勿論、動詞でも、目的語でも、補語でも省いてしまふことがあります。例へば

117. Do you know him? Yes, I know.

Do you know him? Yes, I know him.

この場合には him が答の文で省けております。かういふ場合には [ ] でかこつて him を補へばよいのであります。

（譯文） 君は彼を知つてゐるか。はい、私は[彼を]知つてゐます。

118. Got up at five. Bed at ten.

（語句） get up（ゲツプ）＝起床する
five（ファイブ）＝五
go to bed＝就床する
ten（テン）＝十

I got up (at five.) I went (to bed) (at ten.)

（譯文） 私は五に起床するした。私は十に就床するした＝五時起床。十時就床。

これはつまり日記の文體でありますから、こんなに省略が行はれたのであります。しかし初等の英語には前後で必ず何が省略されたかといふことが、極めて平易に察せらるゝものの外には、この程度のものはあまり出ておりませぬ。たゞ多いのは

119. When I finished the letter, I signed my name, and folded the paper in two, and put it into an envelope.

（語句） folded（フォウルディド）＝fold（フォウルド）＋ed（イッド）＝摺（タタ）む＋した＝摺むだ
paper（ペイパ）＝紙
two（トゥー）＝二つ
envelope（えンヴイロウプ）＝封筒

のやうに、合文の主部が同じものであるとき、その主部を省略したものであります。今は I を省略しており

ます。そこで

(When I finished the letter,) I signed my name, and [I] folded the paper (in two,) and [I] put it (into an envelope.)

となります。

（譯文） 私がその手紙を了へるした時私は私の名を記したそうして 私は その紙を二つの中に摺むしたそうして 私は 一つの封筒の中へそれを置くした＝手紙を了へますと、自分の名を書いてその紙を二つに折り、一枚の封筒に入れました。

定義

65. 文の要素の省かれた文を**省略文**と言ふ。

要領

76. 省略文は省略された要素を補つて解剖し、譯して行く。

練習題 7

英文國譯。

(1) The rich are not always happy.

（語句） not always（おーるうエズ）＝必しも……ならず
happy（へァピ）＝幸福なる

(2) Smoking in bed is not a good habit.

(3) "Please" is a very little word, but it is an important word.

（語句） please（プリーズ）＝何卒
little（リトル）＝つまらぬ
word（ワード）＝言葉
important（イムぽータント）＝重要な

(4) Does he like to study English? No, he does not.

(5) I hope that he will succeed.

（語句） hope（ホウプ）＝望む

(6) Do you know how to swim? Yes, I know very well.

（語句） well（ウエル）＝十分に

(7) It is impossible for us to learn English in a month.

（語句） impossible（イムぽサブル）＝爲し得ざる
for＝（後カラ譯シ上ゲ）にとつては
month（マンス）＝月

(8) It is true that he killed the dog yesterday.

(9) I think it impossible to learn German in a month.

（語句） German（ヂあーマン）＝獨乙語

(10) You and I are responsible for this. It I know well.

（語句） responsible（リスぽンサブル）＝責任ある

第五章 補語

補語には主格補語と目的格補語の二つがありました。そうして動詞が不完全自動詞であると主格補語が存在し、動詞が不完全他動詞であると目的格補語が存在するのでありました。ところでこの各種の補語の形についてはどうかといふと、先づ今迄には名詞、代名詞、形容詞の三つの場合だけしか述べてありません。しかし、この外に前述の略名詞、不定詞、動名詞、その他句、節等がなるものであります。譯し方については要領 72 を御承知になればよいのであります。

120. To learn is to know.

(To learn) is (to know.)

(譯文) 學ぶことは知ることである＝學ぶは知るの始めなり。

121. Seeing is believing.

(語句) believing＝believe＋ing

Seeing is believing.

(譯文) 見ることは信ずることである＝百聞一見にしかず。

122. Our belief is that he will succeed.

(語句) belief (ビリーフ)＝意見

Our belief is (that he will succeed.)

(譯文) 私共の意見は彼が成功するといふことである＝彼は成功すると私共は考へてゐます。

123. His father allowed him to keep the spinet.

(語句) allowed (アらウド)＝allow (アらウ)＋ed (ド)＝許す＋した＝許した
spinet (スピれト)＝小瑟

His father allowed him (to keep the spinet.)

(譯文) 彼の父は彼にあの小瑟を保つことに許すした＝父はあの小瑟を彼に有つてゐてもよいと許しました。

ところで、see, hear, feel 等の動詞の下に不定詞が目的格補語として存在しますと、不定詞の標である to がとれてしまひます。例へば

124. I saw her dance.

(語句) dance (ダーンス)＝踊る

I saw her dance.

のやうに to dance とあるべきが、たゞ dance となつてしまふのであります。そうして

see (hear, feel)＋動詞の目的語＋目的格補語たる不定詞となつておりましたならば、動詞の目的語に『が』といふテニヲハを與へ、目的格補語たる不定詞を譯して『のを』と添へて、後 see, hear, feel へ廻はる

のであります。そこで

（譯文） 私は彼女が踊るのを見るした＝彼女が踊るのを見ました。

となります。

125. I heard him sing.

（語句） sing＝歌ふ

I heard him sing.

（譯文） 私は彼が歌ふのを聞くした＝彼が歌ふのを聞いた。

更に let, make, have 等の動詞の下に不定詞が目的格補語として存在しますと、やはり不定詞の標である to が省かれてしまひます。しかし譯し方は

let (make, have)＋動詞の目的語＋目的格補語としての不定詞の場合には、動詞の目的語を譯し、『をして』と添へ、次に let, make, have と目的格補語としての不定詞を一共に纏め『何々せしむ』と譯す。

のであります。例へば

126. He let him go last night.

（語句） last night（ナイト）＝昨夜

He let him go (last night.)

（譯文） 彼は彼をして昨夜行くせしむした＝彼は彼を昨夜行かせた。

127. I have her go there.

I have her (go there.)

（譯文） 私は彼女をしてそこへ行くせしむ＝彼女をそこへやります。

128. I make my servant clean your boots.

（語句） clean（クリーン）＝掃除する

boots（ブーツ）＝boot（ブート）＋s（ス）＝長靴＋共＝長靴共

I make my servant (clean your boots.)

（譯文）　私は私の召使をして君の長靴共を掃除するせしむ＝うちの召使にお靴を磨かせます。

要領

77. see (hear, feel)＋動詞の目的語＋動詞の原形は動詞の目的語に『が』なるテニヲハを與へ、目的格補語たる動詞の原形の譯に廻はり、『のを』を加へて see, hear, feel に行く。

78. Let (make, have)＋動詞の目的語＋動詞の原形は動詞の目的語に『をして』を加へ、let, make, have と目的格補語たる to の標なき不定詞と一共に纏めて『何々せしむ』と譯す。

次に過去分詞といふものは形容詞の代用になります。そこで過去分詞が形容詞となれば、形容詞は各種の補語になりますから、過去分詞はまた各種の補語ともなるのであります。先づ過去分詞が形容詞として用ひた場合の譯し方から研究しませう。

形容詞として用ひた過去分詞は『何々した』と譯せばよい

のであります。

129. This is a letter written in English.

（語句）　in＝(後カラ譯シ上ゲ)で

This is a letter [written (in English.)]

（譯文）　これは英語で書くした一つの手紙である＝これは英語で書いた手紙だ。

そこで

130. Nearly all the birds are gone to the south.

（語句）　nearly (にアリ)＝殆んど

the south (サウ㊨)＝南。東西南北には必ず the がついてゐる。

Nearly all the brids are gone (to the south.)

（譯文）　殆んど皆のあの鳥共は南へ行くしたである＝殆んど全部の鳥が南へ行つてゐる。

のやうに gone なる過去分詞が主格補語として用ひられることになつても、譯し方には變りがありませぬ。

次に動詞の原形＋ing は必しも動名詞ではないのであります。先づ原形＋ing が主部、目的語等になつておれば、必ずその原形＋ing は動名詞でありますから、『何々すること』と譯してよいのでありますが、その他の場合でありますと、この動詞の原形＋ing が現在分詞といはるゝものであることがあるのであります。そうして現在分詞も形容詞の代用になることがありますから、また現在分詞は各種の補語にもなるのであります。この現在分詞が形容詞として用ひられた場合の譯し方から研究して行きませう。すると

形容詞として用ひられた現在分詞は『何々してゐる』と譯せ

ばよいのであります。例へば

131. The gentleman standing there is my uncle.

（語句） gentleman（ヂえントルマン）＝紳士
standing＝stand＋ing

The gentleman (standing there) is my uncle.

（譯文） あそこへ立つしてゐる紳士は私の叔父です＝あそこに立つてゐる紳士は僕の叔父だ。

ところが

132. A little dog came trotting.

（語句） trotting（トロティン）＝trot（トロト）＋ing（イン）＝急ぐ＋ing

A little dog came trotting.

のやうな文では trotting といふ現在分詞は主格補語となつております。しかしこの場合『何々してゐる』ではどうしても譯がつきませぬ。そこで

主格補語となつた過去分詞は『何々した』と譯せばよいが、現在分詞は『何々して』と譯さねばならぬ

といふことになります。つまり

（譯文） 一つの少さな犬が急ぐして來るした＝一匹の小犬が急いで來た。

となるのであります。

次に過去分詞や、現在分詞が目的格補語となつた場合を考へて見ませう。先づ

133. He saw the buoy floating.

（語句） buoy（ボイ）＝浮標
floating（フロウティン）＝float（フロウト）＋ing（イン）＝浮ぶ＋ing

He saw the buoy floating.

といふ文では floating といふ現在分詞が目的格補語をなしております。すると

目的格補語たる現在分詞は『何々してゐる』と譯して動詞の目的語につけたらよい

のであります。そこで

（譯文） 彼は浮ぶしてゐるあの浮標を見た＝彼は浮んでゐる浮標を見た。

となるのであります。次に過去分詞の目的格補語となつた場合を見ませう。

134. Did you ever see cannon fired?

（語句） cannon（けアナン）＝大砲
fired（フあイアド）＝fire（フあイア）＋ed（ド）＝發砲する＋ed

Did you ever see cannon fired?

このやうに

過去分詞が目的格補語をなしておる場合には、その過去分詞を『何々される』と譯して動詞の目的語につけたならばよい

のであります。そこで

（譯文） 君は嘗て發砲するされる大砲を見るしたか＝嘗て發砲される大砲を見たか＝嘗て大砲が發砲されるのを見たことがあるか。

となるのであります。

定義

66. 動詞の原形＋ing が形容詞として用ひられたるとき、之を**現在分詞**と言ふ。

要領

79. 過去分詞は形容詞として用ひられた場合には『何々した』と譯す。
80. 現在分詞は形容詞として用ひられた場合には『何々してゐる』と譯す。
81. 主格補語たる過去分詞は『何々した』、現在分詞は『何々して』と譯す。
82. 現在分詞が目的格補語の場合には『何々してゐる』と譯して動詞の目的語に、過去分詞が目的格補語の場合には『何々される』と譯して動詞の目的語につける。

練習題 8

次の英語の文を國語の文に直せ。

(1) To teach is to learn.

(2) Teaching is learning.

(3) His object is to study English.

（語句） object（オブヂクト）＝目的

(4) I heard my master sing a song.

（語句） master（まースタ）＝先生
song（ソング）＝歌

(5) I have my servant go there.

(6) I made my servant clean my room.

（語句） room（ルーム）＝部屋

(7) He let me do so.

(8) Now Christmas is come.

（語句） now（ナウ）＝さて
Christmas（クリスマス）＝耶蘇降誕節（十二月二十五日）

(9) A little brown dog came trotting.

（語句） brown（ブラウン）＝褐色の

(10) I saw the woman weeping by the well.

（語句） woman（うマン）＝婦人
weeping（ウイーピン）＝weep（ウイープ）＋ing（イン）＝泣く＋ing
by＝（後カラ譯シ上ゲ）の傍で

第六章　修飾語及び修飾語の修飾語

先づ修飾語も主部、目的語、名詞又は代名詞なる補語につくものと、動詞につくものと、形容詞の補語につくものと三種あるのであります。今主部、目的語、名詞又は代名詞なる補語につく修飾語を研究して行くならば、

135. | That little girl is an English girl. |

That little girl is an English girl.

（譯文）　あの少さな少女は一つの英國の少女である＝あの少さな娘は英國少女です。

のやうに that なり、little なり、an なり、English なりは何れも形容詞であります。また

136. | The house by the river is a mill. |

（語句）　house（ハウス）＝家
river（リヴア）＝川
mill（ミル）＝製粉所

The house (by the river) is a mill.

（譯文）　あの川の傍のあの家は一つの製粉所である＝あの川ばたの家は製粉所です。

のやうに the, a 等の形容詞は勿論、by the river といふやうな句が修飾語をなしております。更に

137. | The fact that he killed himself is true. |

（語句）　that＝（後カラ譯シ上ゲ）といふ
himself（ヒムゼルフ）＝彼自身

That fact (that he killed himself) is true.

（譯文）　彼が彼自身を殺すしたといふあの事實は眞實のである＝彼が自殺をしたといふことは本當だ。

のやうに that he killed himself といふ節が修飾語をなしております。また

138. | This is a stone bridge. |

（語句）　stone（ストウン）＝石
bridge（ブリヂ）＝橋

This is a stone bridge.

（譯文）　これは一つの石橋である＝これは石橋だ。

のやうに stone といふ名詞が bridge といふやうな名詞に對して修飾語をなすことがあります。更に

139. | Henry, an English boy, was brave. |

（語句）　Henry（ヘンリ）＝男兒の名
brave（ブレイヴ）＝勇敢なる

のやうな文になりますと、Henry と an English boy と

同一のものであり、何れも主部をなしてゐます。しかし an English boy は Henry を説明しておるのでありますから、やはり修飾語でありませう。從つて

Henry, (an English boy,) was brave.

となり、

（譯文） 一つの英國の少年ヘンリは勇敢なるであるした＝英國少年ヘンリは勇敢であつた。

となるのであります。次にまた

140. I have time to read.

（語句） time（タイム）＝時

I have time (to read.)

のやうな文に於ては to read といふ不定詞が time に對して修飾語をなしておるのであります。さて

名詞の修飾語をなす不定詞は to の後から譯して來て、to を『べき』と譯します。

そこで

（譯文） 私は讀むべき時を有つてゐる＝讀書の時間がある。

となるのであります。この外、現在分詞や、過去分詞が形容詞の代りをなすため、自然それらが修飾語となること及びそれらの譯し方につきましては前章に既述

のところであります。たゞ

141. Being very tired, I forgot the troubles.

（語句） being＝be＋ing
tired（たイアド）＝疲れたる
troubles（トらブルズ）＝trouble（トらブル）＋s（ズ）＝（いろいろの）難儀

のやうな文になりますと、being very tired は現在分詞の導く句でありますが、さてこれがどの修飾語であつて、如何に譯すかといふことは面白い問題であります。かういふ場合には主部たる I の修飾語なのでありまして、譯し方は前章の現在分詞が形容詞の代りをなしてゐる場合と變らないのであります。そこで

(Being very tired,) I forgot the troubles.

（譯文） 大層疲れたるになるしてゐる私はそのいろいろの難儀を忘れるした＝大層疲れてゐる私はそうした難儀を忘れた。

と譯せるのであります。ところが

142. Surrounded by the high mountains, the village is a solitude.

（語句） surrounded（サらウンディッド）＝surround（サらウンド）＋ed（イッド）＝圍む＋ed
high（ハイ）＝高き
mountains（まウンティンズ）＝mountain（まウンティン）

+s（ズ）＝山＋共＝山共
village（ヴィリヂ）＝村
solitude（そッテイユード）＝僻地

のやうな文になりますと、surrounded by the high mountains は過去分詞の導く句でありますが、この句は village の修飾語となつておるのであります。そこで

[Surrounded (by the high mountains,)]

the village is a solitude.

と解剖するのでありますが、譯し方はやはり前章の過去分詞が形容詞の代りをなしておる場合と變りませぬ。そこで

（譯文） あの高き山共に圍むしたあの村は一つの僻地である＝あの高い山々で圍むだ村は僻地である。

となるのであります。この外に又

143. This is my hat.

（語句） hat（ヘアト）＝帽子

This is my hat.

（譯文） これは私の帽子である。

144. That is Henry's hat.

（語句） Henry's（ヘンリズ）＝Henry（ヘンリ）＋'s（ズ）＝ヘンリ＋の＝ヘンリの

That is Henry's hat.

（譯文） あれはヘンリの帽子である。

のやうに my, our, your, his, her, their, its（イッ）＝それの、名詞＋'s 等は主部、目的語、名詞又は代名詞なる補語の修飾語となるものであります。そうして

名詞＋'s は『(名詞)の』と譯せば必ず通ずることもわかりませう。

定義

67. 主部、目的語、補語に説明的に附加され、同時に主部、目的語、補語となるものを**同格の語**と言ふ。

68. My, our, your, his, her, its, their の如き所有を示す代名詞を**所有格の代名詞**と言ひ、名詞＋'s の如き名詞を**所有格の名詞**と言ふ。

要領

83. 名詞の修飾語をなす不定詞は to の後から譯し、to を『べき』と譯せばよい。

84. 所有格の名詞は『(名詞) の』と譯す。

次に動詞の修飾語について研究して行きませう。先づ

145. He speaks English well.

（語句） speaks（スピークス）＝speak（スピーク）＋s（ス）＝話す＋s
well＝上手に

He speaks English well.

（譯文） 彼は英語を上手に話す。

146. He can run fast.

He can run fast.

（譯文） 彼は疾く走ることが出來る。

147. The mill is by the river.

The mill is (by the river.)

（譯文） あの製粉所はあの川の傍にある。

148. I was reading when he came.

I was reading (when he came.)

（譯文） 彼が來るした時私は讀むしてゐた＝彼がやつて來た時は讀書をしてゐた。

のやうに well, fast といふやうな語、by the river といふやうな句、when he came といふやうな節が動詞の修飾語となつております。この外に例の不定詞がこの動詞の修飾語をなすものであります。例へば

149. I came here to help you.

（語句） help（ヘルプ）＝助力す

I came here (to help you.)

の to help you は came といふ動詞の修飾語であります。すると

動詞の修飾語をなす不定詞は to の後から譯して、to を『べく』と譯せ

ば直譯が得られます。そこで

（譯文） 私はこゝへ君に助力すべく來た。

でありませう。ところが

150. I awoke to find my trunk lost.

（語句） awoke（アウオーク）＝覺めた
find（フアインド）＝發見する
trunk（トランク）＝鞄
lost（ロースト）＝失へる

I awoke (to find my trunk lost.)

を『私は私の鞄を失へるに發見するべく覺めた』では意味がとり難いのでありまして、更に進んで考へねばなりませぬ。つまり『私は私の鞄を失へるに發見する』とは『鞄がなくなつてゐるのに氣付く』でありませう。さて『鞄がなくなつてゐるのに氣付くべく覺めた』とは『覺めた』ことが『氣付く』ことになつたのであると思はねばなりませぬ。そこで

（譯文） 目を覺ますと鞄がないのに氣付きました。

と譯すわけであります。つまりこの種の文では動詞がその動詞の修飾語たる不定詞の動作の原因をなしておるのであります。ですから英文を讀むで行く際に

動詞がその修飾語たる不定詞の動作の原因をなしておる場合には、動詞の次に『そうして』と加へ不定詞の譯に廻はり、動詞の時と同じく不定詞の時を譯せ

ばよいのであります。卽ち今 awoke が『覺めた』と過去でありますから、to find を『發見した』と過去に譯すのであります。ところで、今度は

151. I rejoice to hear of your success.

（語句） rejoice（リヂオイス）＝喜ぶ
of＝（後カラ譯シ上ゲ）に就て
success（サクセス）＝成功

I rejoice [to hear (of your success.)]

のやうな文になりますと、前例の場合と反對に、to hear of your success といふ不定詞の動作の方が動詞の rejoice の原因となります。そういふ場合、動詞は主に喜怒哀樂を述べる種類のものであります。そこで

動詞の修飾語たる不定詞の動作が動詞の原因をなすときは to の後から譯して來て、to を『したので』と譯せ

ばよいのであります。

（譯文） 私は君の成功に就て聞くしたので喜ぶ＝私は君の成功を聞いて喜ぶ。

更に

152. He cannot be a good man to say so.

He cannot be a good man (to say so.)

のやうな文では he cannot be a good man 卽ち『彼は善人である筈がない』といふ理由を to say so といふ不定詞が表はしております。そこで

動詞の修飾語たる不定詞が理由を表はすときは to の後から譯して來て、to を『とは』と譯せ

ばよいわけになりませう。

（譯文） そう言ふとは彼は一つの善き人である筈がない＝そんなことをいふとはあいつも善人の筈がない。

定義

69. 動詞、形容詞、又は他の副詞を修飾する語を**副詞**と言ふ。

要領

85. 動詞の修飾語をなす不定詞は to の後から譯して、to を『べく』と譯す。

86. 動詞の修飾語たる不定詞の動作の原因を動詞がなす場合には、動詞の次に『そうして』を入れて不定詞の譯に廻はり、動詞の時と同じに不定詞の時を譯す。

87. 動詞の修飾語たる不定詞の動作が動詞の原因をなすときはtoの後から譯し來て、to を『したので』と譯せ。

88. 動詞の修飾語たる不定詞が理由を表はすときは to の後から譯して來て、to を『とは』と譯す。

次に形容詞の補語につく修飾語を考へて見ませう。これは先づ very といふ語が最も多いのであります。

153. | She is very gentle. |

She is very gentle.

(譯文) 彼女は大層優しきである＝彼女は大層優しい。

ところで

154. | Is this water good to drink? |

(語句) water (ウオータ)＝水
drink (ドリンク)＝飲む

のやうな文では to drink といふ不定詞が good といふ主格補語の修飾語をなしてゐます。そこで

Is this water good (to drink)?

と解剖するのでありますが、譯し方は

形容詞の修飾語をなす不定詞は to の後から譯し、to を『ことが出來る程』と譯す

ことにすれば通じます。

(譯文) この水は飲むことが出來る程よいであるか＝この水は飲むでよいですか。

ところが

155. | I am glad to see you. |

(語句) glad (グレアード)＝喜べる

I am glad (to see you.).

といふ文は例題 154 番と同じでありますが、譯し方の方は却て例題 151番と同じ種類と考へるべきであります。といふのは am glad＝喜べるである＝喜んでゐると、喜怒哀樂を表はす動詞と同じになりますから、そこで to see you はその原因を示すと見て、

(譯文) 私は君を見るしたので喜べるである＝私はあなたにお會ひしたので喜しい。

と譯すべきでありませう。

最後に修飾語の修飾語は先づ very を以て唯一のものと考へて差支がありませぬ。そこで

156. | This bird sings very sweetly. |

This bird sings very sweetly.

(譯文) この鳥は大層愛らしく囀る。

の very のやうな語が修飾語の修飾語であることは御承知のことであります。

要領

89. 形容詞の修飾語をなす不定詞は to の後から譯して、to を『ことが出來る程』と譯す。

練習題 9

次の英文を和譯なさい。

(1) The hat on the desk is our teacher's hat.

(語句) desk (デスク)=机

(2) John, the carpenter, is an honest man.

(語句) John (ヂオン)=人名。
carpenter (かーピンタ)=大工

(3) Practice is the only way to learn a language.

(語句) practice (プれアクテイス)=練習
only (おウンリ)=唯一の
way (ウエイ)=途
language (れアングウイヂ)=國語

(4) Living in a remote village, I rarely have visitors.

(語句) living=live+ing
remote (リもウト)=遠き
rarely (れアリ)=稀に
visitors (ヴいジタズ)=visitor (ヴいジタ)+s (ズ)=來訪者達

(5) The mill is on a hill. The water-mill is by the river.

(語句) hill (ヒル)=小山

(6) When I was a boy, I was very brave.

(7) He went to Tokyo last mouth to take an examination.

(語句) Tokyo (とーキョ)=東京市
last month=先月
take=受ける
examination (イグゼアミれイシアン)=試驗

(8) I awoke to find my watch lost.

(語句) watch (ウオチ)=懐中時計

(9) He must be a fool to say so.

(語句) fool (フウール)=愚人

(10) I am pleased to see you.

(語句) pleased (プリーズド)=喜べる

第七章 關係代名詞及び關係副詞

文と文とを接續する語は當然接續詞といつたらよいわけでありませう。そうして接續詞の主なものは and, but, for などでありました。勿論『といふ』『といふこと』などと譯す that,『ならば』と譯すif,『時』と譯す when なども何れも接續詞であります。さて英語にはこの and, but, for といふ接續詞と代名詞とを一語に兼ねた語があるのであります。その主なものは who (フー)、whose (フーズ)、whom (フーム)、which (ウイチ)、that, what (ウオト) 等であります。このやうに文と文とを接續する接續詞と代名詞を一語に兼ねた語

を關係代名詞といふのであります。

また文と文とを接續する接續詞と副詞を一語に兼ねた語が英語にはあるのであります。これを關係副詞と言つております。ところで關係副詞の主なるものは when, where, why (ワイ)、等であります。そうして

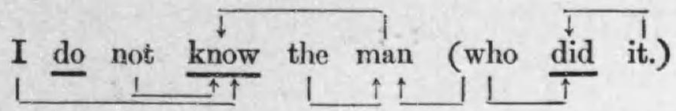
關係代名詞や關係副詞はその後から譯し上げて來て『ところの』と譯すのを原則とする

のであります。今實例を以て說明しませう。

157. | I do not know the man who did it. |

この文では I do not know the man は完全に一文を作り上げております。しかし who did it のところは did といふ動詞があり、it といふ動詞の目的語はありますが、主部が見えませぬ。すると who が主部になります。ところが I do not know the man と who did it と二つの文を繫ぐ接續詞がなくては全體を一文とするわけには行きませぬ。すると who が二つの文を接續しております。そこで who は I do not know the man といふ文と who did it といふ文とを接續する接續詞、先づ前後の關係により and と、實は the man did it とすべきところを二度目の文であるから、he did it と考へ、更に and と he といふ代名詞とを一語で表はす關係代名詞の who を用ひたものと考へねばなりませぬ。そうして who did it といふ節(文の一部になつて主部

動詞を有しておりますから)は要するに the man の man に修飾語としてついておるのであります。故に



と解剖が出來ます。從つて譯し方も

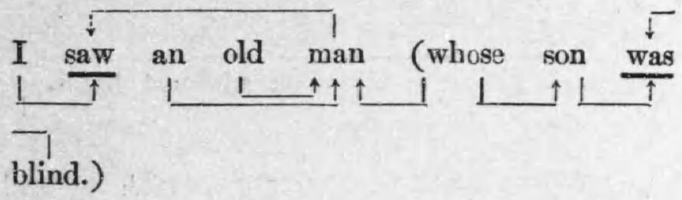
(譯文) 私はそれをしたところのあの人を知るない
=私はそれをした人を知りません。

となるのであります。次に

158. | I saw an old man whose son was blind. |

(語句) son (サン)=息子

のやうな文では whose は and his と、and といふ二文を繫ぐ接續詞と his といふ代名詞とが一語になつたものと考へられます。そこでこの whose は關係代名詞であります。そうして son の修飾語になるべき his と二文を繫ぐ接續詞とを一語に兼ねておると考へれば、



と解剖が出來、

(譯文) 私は息子が盲目のであるしたところの一つの年よつた人を見るした=息子が盲目の老人を見ました。

と譯せるのであります。更に

159. The man whom I saw was a musician.

（語句） musician（ミューじ㋣アン）＝音樂家

のやうな文では whom は and him と、and といふ二文を繋ぐ接續詞と him といふ代名詞とが一語になつたものと考へられます。そこで whom は關係代名詞であります。そうして saw といふ動詞の目的語である him と二文を繋ぐ接續詞の and を兼ね、who I saw が man につく修飾語と考へられますので、

The man (whom I saw) was a musician.

と解剖すべきで、

（譯文） 私が見るしたところのあの人は一つの音樂家であるした＝私が見た人は音樂家でした。

と譯せませう。また

160. That is the book which I have already read.

といふやうな文になれば、この which は and it と、and といふ二文を繋ぐ接續詞と、it といふ the book の代名詞とを一語に兼ねた關係代名詞なることが解ります。そうして it は have read といふ動詞の目的語となる關係でありますから、

That is the book (which I have already read.)

（譯文） あれは私が既に讀むしてしまつたところのあの本である＝あれは私がもう讀んでしまつた本です。

と處理が出來るのであります。次に

161. That is the story that I have ever heard.

（語句） story（ストーリ）＝話

の文では that は and it と、and といふ二文を繋ぐ接續詞と、it なる the story の代名詞とを一語に兼ねた關係代名詞であります。そうして it は have heard といふ動詞の目的語に當りますから、

That is the story (that I have ever heard.)

（譯文） あれは私が嘗て聞くしたことがあるところのあの話である＝あれは私が嘗て聞いたことがある話です。

ところが and なり、but なり、for といふ接續詞と、

何か代名詞を兼ねるこの關係代名詞も、動詞の目的語に當る代名詞を兼ねますと、時々省かれてしまふことがあります。そういふ場合にはやはり關係代名詞があるやうに考へて解剖もし、譯もつけて行くことにせねばなりません。例へば

161. That is the book I have already read.

That is the book [(which 又は that) I have already read.]

（譯文） あれは私が既に讀むしてしまつたところのあの本である＝あれは私がもう讀むでしまつた本です。

のやうに省かれる關係代名詞は which, that, whom に限るのであります。

次に關係代名詞の中で what だけは特別なものでありまして、what は一語で接續詞と代名詞を兼ねるばかりでなく、その代名詞が代表する名詞をも兼ねておるのであります。そこで

關係代名詞の what はその後から譯して來て、wnat を『ところのこと』又は『ところのもの』と譯さねばなりませぬ。

162. What he said is true.

(What he said) is true.

（譯文） 彼が言ふしたところのことは眞實のである＝彼が言ふたことは眞實だ。

163. I cannot understand what you have said.

（語句） understand（アンダスてアンド）＝了解する

I cannot understand (what you have said.)

（譯文） 私は君が言ふしてしまつたところのことを了解することが出來るない＝あなたのおつしやつたことが私には解りませぬ。

定義

70. 文と文とを繋ぐ接續詞と代名詞とを一語に兼ねた語を**關係代名詞**と言ふ。
71. 文と文とを繋ぐ接續詞と副詞とを一語に兼ねた語を**關係副詞**と言ふ。
72. 關係代名詞又は關係副詞が兼ねておる代名詞の表はす名詞を**先行詞**と言ふ。

要領

90. 關係代名詞及び關係副詞は何れもその後から譯し上げ『ところの』と譯すのを原則とする。
91. 關係代名詞の省かれた文は之を補ふて解剖し、譯して行く。

92. 關係代名詞の what はその後から譯して來て、what を『ところのこと』又は『ところのもの』と譯す。

164. This is the place where I was born.

（語句） place（プレイス）＝場所
born（ボーン）＝生れたる

This is the place (where I was born.)

つまり where は二つの文を繋ぐ接續詞 and と、the place を『そこで』と副詞で示す there とが一語に表はされておりますから、關係副詞であります。

（譯文） これが私が生れたるになるしたところのあの場所である＝こゝが私の生れた所です。

165. To-day is the day when I was born.

（語句） to-day（タでイ）＝今日

To-day is the day (when I was born.)

つまり when は二つの文を繋ぐ and といふ接續詞と、the day を『その時』と副詞で示す then（ヅエン）とが一語に表はされておりますから、關係副詞であります。

（譯文） 今日は私が生れたるになるしたところのあの日である＝今日が私の生れた日です。

166. That is the reason why I do not like him.

（語句） reason（リーズン）＝理由

That is the reason (why I do not like him.)

つまり why は二つの文を繋ぐ and といふ接續詞と、the reason を『そのため』と副詞句で示す for it とが一語に表はされておりますから、關係副詞であります。

（譯文） それが私が彼を好むないところのあの理由である＝それがあの人が好かない理由なのです。

ところがこの關係副詞の先行詞がよく省けておることがあるのであります。その場合には先づその先行詞を補ふ必要があります。その補ひ方は

關係副詞の先行詞が省略されておる場合には where の前には at the place『場所で』、when の前には at the time『時に』why の前には for the reason『理由で』を補つて解剖し、譯して行く

のであります。例へば

167. He was killed where she was killed.

He was killed [(at the place) (where she was killed.)]

（譯文） 彼は彼女が殺すされたところのあの場所で殺すされた＝彼は彼女が殺されたところで殺された。

168. He died when the violets bloomed.

（語句） died＝die＋ed

violets（ヴあイアリツ）＝violet（ヴあイアリト）＋s（ス）＝菫＋共＝菫共

bloomed（ブルームド）＝bloom（ブルーム）＋ed（ド）＝咲く＋した＝咲いた

He died [(at the time) (when the violets bloomed.)]

（譯文） 彼はあの菫共が咲くしたところのあの時に死ぬした＝彼は菫の咲いた時に死んだ。

要領

93. 關係副詞の先行詞が省略されておる場合には where の前には at the place『場所で』、when の前には at the time『時に』、why の前には for the reason『理由で』を補つて解剖し、譯して行く。

これは第二りーダ程度になりますと出て來るのであ

りますが、

169. He had a cat of which he was fond.

（語句） cat（ケアト）＝猫

fond（フォンド）＝愛せる

was fond of＝liked＝好むだ

といふやうな、which といふ關係代名詞の前に of だの、at, by, in, on 等の語が置かれてゐる文が出て來ます。このやうな

關係代名詞の前の of, at, on, in, by 等は關係代名詞の節の動詞又は動詞句の後に持つて行きます。

そこで今は was が動詞でありますが、be fond of で like（好む）といふ動詞と同じものになる句、即ち動詞句を成すのであります。そこで was of でなく、was fond of とするのであります。そうして

動詞句をなせば動詞のやうに譯し、動詞句をなさぬ時は of, at, on, in, by 等は譯さずに置いて關係代名詞の譯し方の原則（要領の 90 參照）**によればよい**

のであります。

He had a cat (which he was fond of.)

（譯文） 彼は彼が好むしたところの一つの猫を有つてゐるした＝彼にはすきな猫がゐた。

定義

73. On, in, at, by, of の如く名詞又は代名詞の前に置かれ、その名詞又は代名詞と他の語との關係を示す語を**前置詞**と言ふ。

要領

94. 關係代名詞の前に置かれた前置詞は關係代名詞の節の動詞又は動詞句の後に持つて行き、動詞句をなせば動詞のやうに譯し、動詞句をなさぬ時は前置詞を譯さず、關係代名詞の譯し方は原則による。

今度は第三リーダ位になるとよく出す文でありますが、

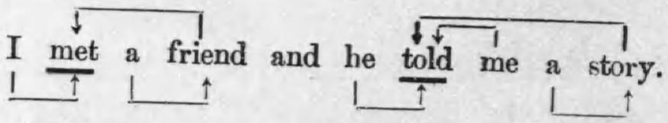
170. I met a friend, who told me a story.

（語句） friend（フレンド）＝朋友

のやうに、who といふ關係代名詞の前に「，」が打たれてあります。このやうに

關係代名詞なり關係副詞の前に「，」が打たれてありましたならば、「，」を and, but, for と直し、關係代名詞は代名詞に、關係副詞は副詞に直して上から順序に譯して行く

のであります。そこで



と、who は二つの文を繋ぐ接續詞で、この場合前後の關係から當然 and でありますが、この and と a friend を先行詞としておりまして、told といふ動作を爲す代

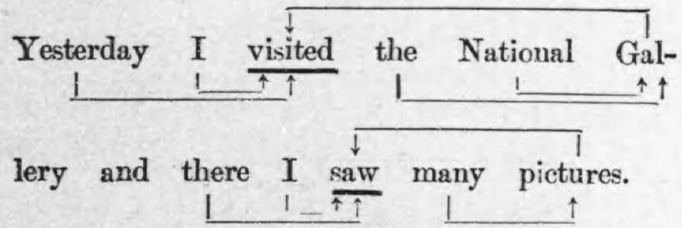
名詞ですから he とに分けるのであります。從つて

（譯文） 私は一つの朋友に會ふしたそうして彼は私に一つの話を告げるした＝ある朋友に會ふと話をして呉れました。

のやうに譯せるのであります。

171. Yesterday I visited the National Gallery, where I saw many pictures.

（語句） visited（ヴィジテイツド）＝visit（ヴィジト）＋ed（イツド）＝見物する＋した＝見物した
National（ねアヌル）＝國立の
Gallery（げアラリ）＝美術館



（譯文） 昨日私はあの國立の美術館を見物するしたそうして私は澤山の繪共を見るした＝昨日國立美術館へ行つて、澤山繪を見ました。

ところが關係代名詞や關係副詞の前に，が打つてあるからと言つて、直ちにその關係代名詞なり、關係副詞が接續詞と代名詞なり副詞なりに分解されるとは限りませぬ。例へば

172. At the beginning of the first term our English teacher, whom we respect, addressed us as follows.

（語句） beginning（ビギニン）＝初（ハジメ）
the first（フアースト）＝第一の。第一、第二といふときには必ず the がつく。
term（タ－ム）＝學期
English＝英語の
respect（リスペクト）＝敬ふ
addressed（アドれスト）＝address（アドれス）＋ed（ト）＝演說する＋した＝演說した
as（アズ）follows（フおロウズ）＝下の如く

[At the beginning (of the first term)]
our English teacher, (whom we respect,)
addressed us (as follows.)

といふ文の whom なる關係代名詞の前に，があります。しかしこの，は we respect の次の，と呼應しておるもので、whom てふ關係代名詞の導く節は respect の次の，までであるといふことを示し、our English teacher の動詞が addressed なることを明白に示す用をなしておるのであります。そこで

（譯文） 第一の學期のあの初に私共が敬ふところの私共の英語の先生が私共に下の如く演說をするした＝第一學期の初に當つて私等が敬ふてゐる英語の先生が次の通りの演說をして下さいました。

これは關係副詞についても同じことで、次の文は

173. The National Gallery, where I saw many pictures yesterday, is in London.

The National Gallery, (where I saw
many pictures yesterday,) is (in London.)

（譯文） 私が昨日澤山の繪共を見るしたところのあの國立の美術館は倫敦の中にある＝昨日繪を澤山見た國立美術館は倫敦にあります。

と譯すことが出來るのであります。

以上の諸例を應用しますと、

174. It lies on the bank of a small river, over which there are four bridges.

（語句） lies（ライズ）＝lie（ライ）＋s（ズ）＝存在す＋s
bank（ベアンク）＝岸
small（スモール）＝少さき
over（おウヴア）＝（後カラ譯シ上ゲ）の上に
there are .....＝.....がある
four（フォー）＝四つの
bridges（ブリヂズ）＝bridge（ブリヂ）＋s（ズ）＝橋＋共＝橋共

のやうな文では、which といふ關係代名詞の前に，を打つべきところが、over といふ前置詞とこの which と

は密接な關係があるため、over の前に，が來たわけでありますから、

It lies [on the bank (of a small river,)]
and (over it) there are four bridges.

となるのであります。そこで

（譯文） それは一つの小さき川のあの岸の上に存在すそうしてそれの上に四つの橋共がある＝その町は小さな川の岸に在り、その川には四つの橋がかゝつてゐる。

となるのであります。また

175. The car, in which the pilot sits, is set in this girder.

（語句） car（カー）＝（風船の）舟
pilot（ぱイラト）＝（風船、飛行機の）操縱者
sits（シツ）＝sit（シト）＋s（ス）＝坐す＋s
set（セト）＝set（置く）の過去分詞。
girder（がーダ）＝大梁

The car, (which the pilot sits in,) is set
(in this girder.)

（譯文） あの操縱者が坐すところのあの舟はこの大梁の中に置くされる＝操縱者が坐る舟はこの大梁中に組まれる。

要領

95. 關係代名詞なり關係副詞の前に・が打たれてあつたならば・を and, but, for と直し、關係代名詞は代名詞に、關係副詞は副詞に直して、上から順序に譯して行く。

96. 但し關係代名詞なり關係副詞なりの導く節を明瞭ならしむるためのは・然らず。

練 習 題 10

英文和譯。

(1) Here is the letter I wrote.

(2) That is the reason why I set fire to the rice.

（語句） fire（フあイア）＝火
rice（ライス）＝稻

(3) The shortest railway in the country is the Central London tube, which has but seven miles of line.

（語句） the shortest（ゾ゛ォーテスト）＝最も短かき。Short（ゾ゛ォート）＝短かきと言ふ形容詞に est（エスト）の加はれるもの。形容詞に est が加はり、前に the が置かれると『最も何々な』といふ意味を出す。
railway（れイルウエイ）＝鐵道
country（かントリ）＝國
Central（せントラル）＝中央の
tube（ティューブ）＝地下鐵道
but＝only＝僅かに
seven（せヴン）＝七つの
line（ライン）＝線路

(4) The ancient Greek games at Olympia, which were held every fourth year, must have been splendid.

(語句) ancient (えインシエント)=昔の
Greek (グリーク)=ギリシアの
games (ゲイムズ)=game (ゲイム)+s (ズ)=(いろいろの)競技
Olympia (オリムピア)=オリンピア
held (ヘルド)=hold (行ふ)の過去分詞。
every (えヴリ)=毎
fourth (フオーシ)=第四の
year (イアー)=年
splendid (スプれンディド)=立派な

(5) This is the most interesting novel that I have ever read.

(語句) the most (モウスト)=最も
interesting (いンテレステイン)=面白き
novel (のヴアル)=小說

(6) He is the man with whom I went to Paris last year.

(語句) with (ウイヅ)=(後カラ譯シ上ゲ)と共に
Paris (ペアリス)=巴里市
last year=昨年

(7) Tokyo lies on the banks of the River Sumida, over which there are many bridges.

(語句) the River Sumida (すミダ)=隅田川。川の名には the をつける。

(8) He is the man of whom I spoke the other day.

(語句) speak of.....=.....の噂をする
the other (あヅア) day=先日

(9) He is a friend of mine whose father is a soldier.

(語句) mine (マイン)=私のもの

(10) This is the place where I and he were born.

第八章 疑問代名詞及び疑問副詞

何、誰、何時、何處、何故といふやうな言葉は疑問を發する言葉であります。そこでこれらの言葉を總稱して疑問詞と言ふのでありますが、更に詳しく考へて見ますと、何時、何處、何故といふ疑問詞の方は動詞について修飾語となる語と考へられますから、これらを疑問副詞と言ひ、何、誰のやうに名詞の代りをなす方を疑問代名詞と名付けます。また『何の花』といふ『何の』のやうに疑問詞が形容詞の代りをなすものを疑問形容詞と言ひます。

ところで元來疑問詞は必ず文の冒頭に置かれるものであります。邦語でも『おまへは何處へ行つて來た』と問ふより『何處へ行つて來たんだ、お前は』と問ふ方が普通となります。しかし直譯を得るためには

疑問詞は文の冒頭に出てゐるが、その要素たる地位を考へて譯す

ことにした方がよいやうであります。そうして

Whatは『何』、whoは『誰』、whoseは『誰の』、whomは『誰を』『誰に』、

whichは『どちら』、whenは『何時』、whereは『何處』、whyは『何故』、howは『いかに』と譯を定める

方が便利であります。實例を見て行きませう。

176. Where is the mill?

Where is the mill?

(譯文) あの製粉所は何處にあるか＝製粉所は何處にありますか。

177. What is this?

What is this?

(譯文) これは何であるか。

178. Who is he?

Who is he?

(譯文) 彼は誰であるか。

179. Whose cap is this?

(語句) cap (ケアプ)＝(無緣)帽子

Whose cap is this?

(譯文) これは誰の帽子であるか。

180. Whom did you kill?

Whom did you kill?

(譯文) 君は誰を殺すしたか＝お前は誰を殺したのだ。

181. When do you leave?

When do you leave?

(譯文) 何時君は去るか＝何時出發します。

182. Why are you crying?

(語句) crying＝cry＋ing

Why are you crying?

(譯文) 何故君は泣くしてゐるか＝何故泣いてゐるのだ。

183. How do you do?

(語句) do＝暮らす

How do you do?

(譯文) 如何に君は暮らすか＝御機嫌如何。

定義

74. 何、何故、何時、何處、どちら、誰等を**疑問詞**と言ひ、疑問詞にして副詞の用をなすものを**疑問副詞**、代名詞の用をなすものを**疑問代名詞**と言ふ。また疑問詞にして形容詞の用をなすものを**疑問形容詞**と言ふ。

要領

97. 疑問詞は文頭に現はれてゐるが、その要素たる地位を考へ、what は『何』、who は『誰』、whose は『誰の』、whom は『誰を』『誰に』、which は『どちら』、when は『何時』、where は『何處』、why は『何故』、how は『如何に』と譯す。

前述の通り which は『どちら』と譯せばよいのでありますが、which には時折次のやうな關係をなしておるものがあります。

184. Which do you like better, white roses or red roses?

(語句) red (レド)=赤き
white (ワイト)=白き
better (ベタ)=更によく

卽ち Which……『更に何々』ニ、ナ、A or B? といふ關係は『A と B とではどちらが、ヲ更に何々ニ、ナ何々する、何々であるか』といふ問ひ方をするのであります。そこで解剖の際には which と A or B を同格と考へます。

Which do you like better, (white roses or red roses)?

(譯文) 白き薔薇と赤き薔薇とではどちらを更によく君は好むか=白薔薇と赤薔薇とではどちらの方がお好きですか。

序にこの種の問に對する答の文を研究しておきませう。

185. I like white roses better than red roses.

(語句) than (ヅエアン)=(後カラ譯シ上ゲ)より

I like white roses better (than red roses.)

(譯文) 私は赤き薔薇より白き薔薇を更によく好む=私は赤薔薇より白薔薇の方が好きです。

同じやうな關係でありますが、『AとBとCとでは』と『AとBとでは』と二つのものを問ふたのに對し三つ以上のものについて『どちらガ又はヲ』と問ふ場合には次のやうになつております。

186. Which do you like best, the lily, the rose or the peony?

(語句) best (ベスト)=最もよく
lily (リリ)=百合
peony (ぴアニ)=芍藥

Which do you like best, (the lily, the rose or the peony)?

（譯文） 君はあの百合とあの薔薇とあの芍藥とではどちらを最もよく好むか＝百合と薔薇と芍藥とではどちらがすきですか。

187. I like the rose best of the three.

（語句） of＝（後カラ譯シ上ゲ）の中で
three（ス リー）＝三

I like the rose best (of the three.)

（譯文） 私はあの三の中であの薔薇を最もよく好む＝私は三つの中で薔薇が一番好きです。

要領

98. Which .....『更に何々』、A or B? は『甲と乙とではどちら.....』、Which.....『最も何々』, A, B or C? は『甲と乙と丙とではどちら.....』と譯す。

疑問詞は文の冒頭に現はれるのが原則ではありますが、

188. In what city does he live?

（語句） city（シティ）＝市

のやうな文となりますと、what なる疑問詞の前に in が出ております。勿論この what は疑問形容詞となつております。さてどうして in が疑問詞の前に出たかと考へて見ますと、先づ Does he live in what city? といふ文であつたものが、what があるため、what が先に出ます。すると in what city で動詞につく修飾語たる句をなしておるため、in what city はそのまゝ文の冒頭に送られたわけなのであります。そこで

(In what city) does he live?

となるのは當然でありまして、

（譯文） 何市に彼は住むでゐるか。

189. With what do you speak?

（語句） with＝（後カラ譯シ上ゲ）で

(With what) do you speak?

（譯文） 何で君は話すか。

かうした場合は容易に了解が出來ることでありますが、時には

190. Do you wonder who lights the lamp?

（語句） wonder（ワンダ）＝（不思議に）思ふ
lights（ライツ）＝light（ライト）＝＋s（ス）＝明りを附ける＋s
lamp（レアムプ）＝らんぷ

といふやうな文に出會ふことがあります。この場合の who は前章の關係代名詞ではありませぬ。第一 who の先行詞の見えぬことによつても解るでありませう。では疑問詞としては文の冒頭に出ておらず、前に前置詞でもあつて、全體が副詞句をなしておるといふのでもありませぬ。これは Do you wonder.....? といふ文の動詞の目的語となるところへ who lights the lamp?

といふ疑問文がそのまゝ入つたわけなのであります、つまり

一文の要素が一つの疑問文が占めておることがあります。この場合には疑問文を譯し、そのあとへ『といふこと』と加へ所要のテニヲハを更に添へる

ことにすれば譯はついてしまふのであります、そこで

Do you wonder (who lights the lamp)?

（譯文） 誰がそのらんぷに明りをつけるかといふことを君は思ふか。

と譯します。この種のもので

191. Whom do you think I met yesterday?

といふやうな文があります。これは Do you think.....? といふ文の動詞の目的語へやはり Whom did I meet yesterday? といふ疑問文が入つたわけでありますが、却つて Whom といふ疑問詞の次へ do you think といふ文を入れてしまつたのであります。そうして疑問文が他の文の要素をなす場合には疑問詞だけ先にして主部と動詞は平叙文のまゝに置かれるのでありますから、whom I met yesterday? として入つたわけであります。

(Whom) do you think (I met yesterday)?

（譯文） 君は私が誰に昨日逢ふしたかといふことを思ふか＝誰に逢つたとお考へになります。

要領

99. 一文の要素が一つの疑問文が占めておることがあれば、疑問文を譯し、後へ『といふこと』を加へ所要のテニヲハをそれに添へる。

最後に疑問詞のうちに any（えニ）、anybody（えニボデイ）、any one, anything（えニ㊀イン）、anywhere（えニウエア）といつた種類のものがあります。これらは決して文の冒頭には出ませぬ。そうして

any は『何か』、anybody, any one は『誰か』、anything は『何物か』、anywhere は『何處か』と譯す

のであります。

192. Did you go anywhere during the holidays?

（語句） during（でイユアリン）＝（後カラ譯シ上ゲ）の間
holidays（ほラデイズ）＝休暇

Did you go anywhere (during the holidays)?

（譯文） 君はあの休暇の間何處か行くしたか＝君は休暇の間に何處かへ行つたか。

また

193. How many books have you?

How many books have you?

（譯文） 如何に澤山の本共を君は持つてゐるか＝幾冊君は本を持つてゐるか

といふやうな用法が how といふ疑問詞にはあります。つまり how の次に many, much などといふ形容詞を置いて how many なり、how much で恰度『幾つの』『いくらの』と一個の疑問詞を成しておるのであります。

要領

100. Any は『何か』、anybody, any one は『誰か』、anything は『何物か』、anywhere は『何處か』と譯す。

練習題 11

次の英文を譯せ。

(1) Where are you going?

(2) What is this? This is a dog. Is it not a fox? No, it is not.

(3) Who is she? She is Mary. She is my sister.

（語句） Mary（めアリ）＝女兒の名。
sister（しスタ）＝姉妹

(4) How long is it? It is a thousand feet long.

（語句） long（ロン）＝長き
a（エイ）＝一
thousand（ゼあウザンド）＝千
feet（フィート）＝呎（foot フト）の複數

(5) Which do you like better this or that? I like this better than that.

(6) Whose cat is this? It is Mary's cat.

(7) In what country does he live? He lives in England.

（語句） England（いングランド）＝英國

(8) With what do you smell? I smell with my nose.

（語句） smell（スメル）＝嗅ぐ
nose（ノウズ）＝鼻

(9) How many books are there in that book-case?

（語句） are there.....? ＝.....があるか
book-case（ぶクケイス）＝本箱

(10) Do you think who he is?

第九章 接續詞

語と語、句と句、又は節と節とを繋ぐ接續詞にもその用法によつていろいろ種類があります。And や but や for はたゞ繋ぐだけの用をなしておりますが、if, when, that などになりますと、繋いだ上にある節なら節を他の節の要素の一つとさせてしまひます。また

and, but, for, or, if, when, that のやうに單語の場合もあり、as well as といふやうに句をなしておるものがあり、更に not only……but——といふやうに相關聯して接續詞をなしておるものがあります。そこで次にこの接續詞の大體を研究して置かうと思ふのであります。

第一に

and, but, for, or 等は上から下へと譯すのであります。そうして and は『そうして』、but は『然し』、for は『何となれば』、or は『又は』と譯す

のであります。

194. Sam and Dan are cousins.

(語句) Sam (セアム)=人名。
Dan (デアン)=人名。
cousins (かズンズ)=cousin (かズン)+s (ズ)=從兄弟+共=從兄弟共

(Sam and Dan) are cousins.

(譯文) サムそうしてダンは從兄弟共である。

195. I am a boy, but you are a girl.

I am a boy, but you are a girl.

(譯文) 私は一つの少年である然し君は一つの少女である=僕は少年だが、君は少女だ。

196. It is on the table or on the chair.

(語句) table (てイブル)=卓(テーブル)
chair (チエア)=椅子

It is (on the table or on the chair.)

(譯文) それはあの卓の上に又はあの椅子の上にある=卓の上か、椅子の上にあります。

先づ上例で 194 番では and は語と語、195 番では but は節と節、196 番ではor は句と句とを繋いでおります。しかし單に繋ぐだけで、その繋いだ節を他の節の要素にするなどといふことはないのであります。

定義

75. 語と語、句と句、又は節と節とを繋ぐ語を**接續詞**と言ふ。
76. 接續詞中句をなすものを接續句、相關聯して用ふるものを**關聯接續詞**と言ふ。
77. 單に語、句、節等を繋ぐ接續詞を**同位接續詞**と言ひ、繋げたる節を他の節の要素とせる場合之を**從屬接續詞**と言ふ。

要領

101. 同位接續詞の主なるものは and, but, for, or である。そうして同位接續詞は上から下へ譯し、and は『そうして』、but は『然し』、for は『何となれば』、or は『又は』と譯す。

次に接續句の主なるものは as well as, as if, in order (オウダー) that 位である。その譯し方は

……as well as— は『——は勿論……』、……as if— は『恰も——の如く……』、……in order that— は『——するやうに……』と譯す

のであります。

197. You as well as I are responsible for it.

(You as well as I) are [responsible (for it.)]

(譯文) 僕は勿論君はそれに對して責任あるである＝僕は勿論君も責任があるのだ。

198. He talks as if he knew everything.

(語句) talks (トークス)=talk (トーク)+s (ス)=話す+(s)
everything (えヴリ図イン)=萬事

As if の次の動詞は as if の前が現在であると過去になり、過去であると過去完了でありますが、譯をつける場合には as if の次の動詞は as if の前の動詞の時と同じにして譯します。例へば as if の前が現在であつたならば、as if の次は過去であつても、現在のつもりで譯すのであります。

He talks (as if he knew everything.)

(譯文) 彼は恰も萬事を知つてゐるの如く彼は話す＝なんでも知つてゐるやうなことを言ふ。

199. He works hard in order that his family may live in comfort.

(語句) family (フえアミリ)=家族
live=暮す
comfort (かムフアト)=安樂

He works hard [in order that his family may live (in comfort.)]

(譯文) 彼は彼の家族が安樂の中に暮すしてもよいするやうに熱心に働く＝彼は家族に樂をさせやうと勉强する。

要領

102. ……as well as—— は『——は勿論……』、……as if—— は『恰も——の如く……』、……in order that ——は『——するやうに……』と譯す。

今度は從屬接續詞の方でありますが、之は今の接續句の中にもありました通り

從屬接續詞はそのある方の節から譯し出し、接續句以外の場合を言へば、if は『ならば』、when は『時』、that は主部、目的語、補語たる節を導くときは『といふこと』、修飾語としての節、特に形容詞の用をなして名詞につく節を導くときは『といふ』と譯す

のであります。

200. That he is honest is true.

(That he is honest) is true.

（譯文） 彼が正直なであるといふことは眞實のである＝彼が正直だといふことは本當だ。

201. The fact that he killed a tiger is believed by all.

The fact (that he killed a tiger) is believed (by all.)

（譯文） 彼が一つの虎を殺すしたといふ事實は萬人に信ずるされる＝彼が虎を殺したといふ事實は人は皆信じてゐる。

If や when などについては前章で何度も出逢つたところでありますから、説明は省いておきませう。すると最後に關聯接續詞の研究に入るわけであります。

要領

103. 從屬接續詞はそのある方の節から譯し出し、接續句以外の場合を言へば、if は『ならば』、when は『時』、that は主部、目的語、補語たる節を導くときは『といふこと』、修飾語としての節、特に形容詞の用をなして名詞につく節を導くときは『といふ』と譯す。

さて關聯接續詞の主なるものは both（ボウ図）……

and—, not only……but—, no sooner（スウーナア）……than—, scarcely（スケアスリ）……when—, so……that——であります。之等が所謂英語の公式として世に通るものなのでありまして、よく上級學校の入學試驗問題として出題さるゝところのものであります。次に順次研究して行つて見ませう。

202. Both Sam and Dan go to school.

（語句） both……and——＝……も——も

(Both Sam and Dan) go (to school.)

（譯文） サムもダンも學校へ行く。

203. Not only I, but you are responsible for this.

（語句） not only……but——＝……のみならずまた——

(Not only I, but you) are responsible (for this).

（譯文） 僕のみならずまた君はこれに對して責任あるである＝僕ばかりでなく君だつてこれには責任がある。

次に no sooner……than— でありますが、之はscarcely……when—と同じ意味であります。そうしてNo sooner なり、Scarcely を強く文の冒頭に置きますと、主部と動詞とはその位置を換へます。

204. We had no sooner reached the station than the train started.

（語句） no sooner……than——＝……するかせぬに——

We had no sooner reached the station than the train started.

（譯文） 私共があの時にあの停車場に到着するしてしまつてゐたするかせぬにあの汽車は出發するした＝私共が停車場に着くか着かぬに汽車は出て仕舞つた。

205. Scarcely had we reached the station when the train started.

Scarcely had we reached the station when the train started.

（譯文） 私共があの時にあの停車場に到着するしてしまつてゐたするかせぬにあの汽車は出發した＝私共が停車場に着くか着かぬに汽車は出て仕舞つた。

最後に so……that— に入りますと、

206. He is so honest that I love him very much.

（語句） so……that—— ＝大層……だから——

He is so honest that I love him very much.

（譯文） 彼は大層正直なであるだから私は彼を大層大いに愛する＝あの男は大層正直ですから大いに愛してやるのです。

といふやうに so……that— は結果を表はすのであります。

要領

104. Both……and—— は『……も——も』、not only……but—— は『……のみならずまた——』、no sooner……than——及び scarcely ……when—— は『……するかせぬに——』、so……that——は『大層……だから——』と譯す。

練習題 12

英文和譯。

(1) He recited so excellently that every one admired him.

（語句） recited（リさイティッド）＝recite（リさイト）＋ed（イッド）＝諳誦する＋した＝諳誦した
excellently（えクサラントリ）＝優れて
every（えヴリ）＝各の
one＝人
admired（アドまイアド）＝admire（アドまイア）＋ed（ド）＝感服する＋した＝感服した

(2) We had scarcely started when it began to rain.

(語句) it=天氣を示す。
rain=(雨が)降る

(3) Scarcely had the steamer run on the rock when he jumped into the sea.

(語句) steamer (スティーマ)=汽船
rock (ロク)=岩
jumped (ヂアムプト)=jump (ヂアムプ)+ed (ド)=跳ぶ+した=跳んだ
the sea (シー)=海

(4) Both body and mind are injured by immoderation.

(語句) body (ボディ)=身體
mind (マインド)=精神
injured (いンヂアド)=害す+した=害した
immoderation (いモダれイシアン)=不節制

(5) By this trip he has not only restored his former health, but extended his experience.

(語句) trip (トリプ)=旅行
restored (リストード)=restore (リストー)+ed (ド)=回復す+ed
former (フおーマ)=前の
health (ヘルス)=健康
extended(イクステンディッド)=extend(イクステンド)+ed (イッド)=增す+ed
experience (イクスぴアリアンス)=經驗

(6) Though he is a Chinese he speaks English as naturally as if he were an Englishman.

(語句) though (ヅオウ)=(後カラ譯シ上ゲ)だけれど。一個の接續詞。

Chinese (チアイにース)=支那人
as.....as if——=.....as if——
naturally (れアチラリ)=自然に
Englishman (いングリシマン)=英人

(7) He has experience as well as knowledge.

(語句) knowledge (のリヂ)=知識

(8) I study hard in order that I may pass the examination.

(語句) pass (パース)=合格す

(9) Do you study either English or French?

(語句) either (いーヅア) .....or——=.....か——か何れか。一個の接續詞。

(10) No, I study neither English nor French.

(語句) neither (にーヅア) .....nor (ノー) ——=.....も——も(何々)せぬ。一個の接續詞。

練習題解答

1

(1) これは牝鷄である。

(註) 邦語では『これは一羽の牝鷄である』のやうに、一々『一羽の』『一匹の』『一個の』などと言ひませんから、意譯の際には a の譯語は省きませう。

(2) あれは梟である。

(3) (それは)大きな船だ。

(註) この it は『それは』といふ意味でありますが、this や that のやうに嚴重に『それは』といふに及ばないのであります。邦語ではかういふ場合に『それは』を省きますが、英語では定義16で言ひました通り、主部がなくては文になりませぬ。そこで別に指すこともない折には it で主部を表はすのであります。

(4) あの兒の名はボブです。

(註) 『彼の名はボブである』と直譯がつけば、Bob は男の兒の名だと註にあつたのだから、譯文のやうな意譯が得られませう。

(5) あの人達は庭球をやります。

(6) 私は大層少さな魚なんです。

(註) 英語は面白い國語で、I には am, you には are といふやうに『ある』といふ動詞が異るのであります。そこへ行くと邦語は『私は少年である』、『君は少女である』といふ具合に『ある』といふ動詞には變りがありませぬ。

(7) お前はまことに綺麗な鳥だ。

(8) 彼女は美しい繪を三枚呉れました。

(註) 『私に與へた』は『呉れた』と同じ意味。『三枚の綺麗な繪』はかういふ文中では『美しい繪を三枚』と譯すべきでありませう。

(9) 母は僕を軍人にしました。

(10) この薔薇は大層よく香ります。

(註) 例題九番を參照下さい。

2

(1) 花は芳ばしく香り、小鳥は再び囀る。

(註) 練習題 1. 10 參照のこと。

(2) 彼等は私を大層愛して呉れます。といふのも私は大變正直な子供ですから。

(註) 練習題 1. 8 解答、註參照のこと。

(3) 彼は犬を見たのでしたが、彼女の方は大層大きな狐を見ました。

(4) 彼等は私は大變幸福だと思つてゐます。

(5) その兒は手紙を書き終へますと自分の名を記しました。

(註) 『手紙を完成する』といふことは『手紙を書き終へる』といふことでありませう。

(6) そのお話はあの人が昨日時計を失くしたつてことなんです。

(7) 彼はあの時計を失したが、代りを持つてゐる

と言つてゐました。

(註) Another one は『別の一個』でありますが、『別の懐中時計』、卽ち『代りの時計』、『代り』と譯したのであります。

(8) 君は私が昨日あの時計を失くしたことを知つてゐるのだが、僕には別のがあるといふことも知つてゐるのだ。

(註) 『僕は別の一個を持つてゐる』は『僕には別のがある』と言ふても差支へがない筈であります。この場合の『ある』は is, am are の『ある』ではなく、所有してゐるといふ意味の『ある』であります。

(9) 彼女はそこへ行きますと、大聲で泣きました。

(註) 『何々した時何々』は『何々すると何々』と意譯が出來ます。

(10) 叔父さんはあそこに小さいながらお家(うち)があるので、私共はあそこに長いことおりました。

3

(1) これは犬ですか。はい、犬です。

(註) かういふ場合の it は先づ譯しませぬ。

(2) まァ疾く走る。

(3) この花の綺麗なこと。

(註) 『これらの花』などと邦語で言ひませぬ。第壹編の最後のところを參照して下さい。

(4) 何と黑い犬なのでせう。

(5) 私は軍人ではありません。私は學生なのです。

(6) これは天幕ですか。いゝえ天幕ではありません。

(7) これは風車ですか。はい、風車です。あれも亦風車ですか。いゝえ、風車じやありません。水車です。

(註) Too は is といふ動詞につく修飾語でありますが、意譯の際には主部につけて『あれも亦』といふやうにします。

(8) おまへは魚じやない。お前は鳥なのだ。私は鳥でせうか。いゝえ、あなたは鳥ではありません。あなたは魚なんです。

(9) この蝙蝠傘はあなたのですか。いゝえ、私のじやありませぬ。

(註) This は『これは』といふ場合と本題のやうに『この』と譯す場合とあります。

(10) 大きなくねんぼではありませんか。はい、大きなくねんぼです。あなたのですか。いゝえ、あなたのです。

(註) 最後の No, it is yours. は No, it is not mine. It is yours といふべきところを縮めて No, it is yours. としてあるのであります。

4

(1) 水中を覗くとそこにまた一匹の犬が見えた。

(註) Look into ～ = ～ の中を覗く。

(2) しかし遠からず秋が來る。

(註) 『秋がこゝにある』は『秋が來る』の意味でありませう。

(3) 彼等は砂へ深い井戸を掘ります。

(4) あの人は日本に住むでゐますか。いゝえ、日本には住むでゐませぬ。

(5) 太陽は私共へ光を與へます。

(註) 天體の名には必ず英語では the をつけて置きます。そこで『あの太陽』といふのではありませぬ。

(6) 私共は年をとりますと死にます。

(7) 私は國の爲に死のう。

(8) 料理番は臺所で私達の食物を料理致します。

(9) 君にこの繪を上げませう。

(10) それは本當の筈がない。それは僞に違ひない。

5

(1) 彼女は英語の讀本を讀むでゐる。

(2) 私はあの時は手紙を書いてゐた。

(3) 彼はあそこへもう行つてしまつたか。はい、彼はもうあそこへ行つてしまひました。

(註) 疑問文の『もう』は yet, 平叙文の『もう』は already であります。

(4) 君は嘗て飛行機を見たことがあるか。

(5) この前の日曜日から病氣です。

(6) 博覽會が今度の土曜から上野公園で開かれる。

(註) 『土曜日から』さどうして『から』と入れたかと言へば、博覽會は一日で終るものではありませぬ。そこで『から』を加へて譯しました。しかし英語では『開かれる』といふ動作は『今度の土曜日』と考へて『から』といふ言葉は特に用ひませぬ。

(7) お宅の別莊は建ちましたか。いゝえ、まだ建築中です。

(註) この時のtheyは大工達でも暗に指すものでありませう。

(8 御兄弟は洋行なさつたことがおありですか。はい、よく洋行致しました。

(註) 『海外にあつたことがあるか』とは『洋行したことがあるか』の意味になります。

(9) 二三の人は彼がそれを盜んだのだと申しました。そこで彼は裁判官の前へ連れて行かれました。

(註) 『裁判官の前に取られた』とは『裁判官の前に連れて行かれた』でありませう。

(10) こんなに遠くまで瑞西と獨逸との間をライン川は流れて來ました。

6

(1) 僕は富豪ならば鄕里に理想鄕を建設する。

(註) 『故鄕の村の中に』は『鄕里に』でよいわけであります。

(2) 君はあの時笑つたが、僕が君だつたならば確かに泣いた。

(3) 人は貧民に親切であるべきです。

(註) The poor で『貧民』、poorだけでは『貧しき』であります。

(4) 今後は勉强せねばならぬ。

(註) Work hard は『熱心に働く』卽ち『勉强する』であります。

(5) 彼等に彼の金を皆やらねばならなかつた。

(6) あの人達はたやすく歩くことが出來ないのです。といふのは跛だからです。

(7) 中には眼はあるが見えぬ人もあります。この人達は盲目です。

(註) 『若干の人々は……する』は『中には……する人もある』と言ひ換へることが出來ませう。

(8) 老人達は眼鏡がなくては讀めませぬ。といふのは遠視眼ですから。

(9) 彼等は一ッ氣に七哩歩くことが出來ます。

(註) 『一つの時に』は『一時に』、『一ッ氣に』となります。

(10) よく幼少の頃はこの小說を讀むだものです。

7

(1) 富者必ずしも幸福ならず。

(註) Always は『常に』といふ意味で、動詞の修飾語のやうに見えませう。しかし not always となれば、纏めて主格補語の修飾語と取扱ひます。そこで『常に幸福でない』と譯さず、『常にでなく幸福である』と考へなければならぬのであります。一體總稱詞『總て』『常に』『何でも』といふ語に not のやうな否定の語がついたときはその總稱詞だけを否定するといふこ

とを覺えておいて下さい。例へば I have **not** read **all** the books. は『私は全部でなくその本共を讀むでしまつた』、卽ち『私はその本は皆は讀むでおりません』といふ譯し方になります。解剖は

(The rich) are (not always) happy.

とすればよいのであります。

(2) 寢床で煙草を吸ふのはよい習慣でない。

(註) Smoking in bed が主部であります。そうして smoking は動名詞であります。

(3) 『何卒』といふ言葉はまことにつまらぬ言葉ではありますが、重要な言葉であります。

(4) 彼は英語を學ぶのが好きですか。いゝえ、好きませぬ。

(註) No, he does not like to study English. の like to study English が前後で解りますから省いてあるのです。

(5) 彼が成功することを望むでおります。

(6) 君は泳ぎ方を知つてゐるか。はい、實によく心得ております。

(註) Yes,I know how to swim very well.の省略文であります。

(7) 一と月で英語を覺えることは私共にとつては出來ぬことです。

(註) It は形式上の主部であります。

(8) 彼があの犬を昨日殺したといふのは本當です。

(註) It は that 以下の節を代表した形式上の主部であります。

(9) 一と月で獨逸語を覺えるなどとは不可能だと思ひます。

(註) It は形式上の目的語であります。

(10) 君と僕とがこれについては責任があるのだ。それはよく解つてゐる。

(註) It I know well. は it が動詞の目的語でありますが、强く發表するために文頭に出てゐます。

8

(1) 敎ふるは學ぶの始めなり。

(2) 敎ふるは學ぶの始めなり。

(3) 彼の目的は英語を學ぶにある。

(4) 先生が歌を歌はれるのを聞きました。

(5) 召使をそこへやります。

(6) 召使に私の部屋を掃除させました。

(7) 私にそうさせました。

(註) Let の活用は let; let; let で、『そうさせる』でもよいやうに思はれませうが、『そうさせる』の場合には lets となつておればならぬ筈です。(例題 33 參照)

(8) さてクリスマスが來てゐる。

(註) Come はこの場合は過去分詞でありまして、主格補語となつております。

(9) 小さな褐色の犬が急いで來た。

(10) 井戸の傍で泣いてゐる婦人を見ました。

9

(1) 机の上の帽子は先生の帽子です。

(2) 大工のヂオンは正直者です。

(3) 練習は國語を學ぶ唯一の途である。

(註) To learn a language は way につく修飾語をなす不定詞の句であります。

(4) 遠い田舍に住むでゐる私には來訪者などは滅多にありませぬ。

(註) 『遠い村』ですから『遠い田舍』と意譯し、『稀に來訪者を有つ』ですから『來訪者など滅多にない』と意譯をします。

(5) 製粉所は小山の上にあり、水車は河岸にある。

(6) 少年時代はまことに勇敢でした。

(註) 『私が少年であつた時』とは『私の少年時代は』に當りませう。

(7) 彼は受驗のため先日上京しました。

(註) 『試驗を受けるべく』は『受驗のため』、『東京へ行つた』は『上京した』であります。

(8) 目を覺ますと時計がなくなつてゐるのに氣付いた。

(9) そんなことを言ふとはあれは馬鹿に違ひない。

(10) お會ひして喜ばしうございます。

10

(1) こゝに私が書いた手紙がある。

(註) The letter の次に that か which といふ關係代名詞が省略されてゐます。

(2) それが私が稻に火をかけた理由なのです。

(註) 『稻へ火を置いた』とは『稻へ火をかけた』の意味となりませう。

(3) この國で一番短い鐵道は倫敦中央地下鐵道であります。その延長僅か七哩ですから。

(註) かうした which は for it と考へて見ませう。『線路の七哩』は『七哩の線路』であります。

(4) 三年おきに行はれたオリンピアに於ける古代ギリシヤの競技は立派であつたに違ひない。

(註) 『毎第四の年』は『三年おきに』となります。そうしてこの must は『に違ひない』の方でせう。

(5) これは私がこれまでに讀んだなかで一番面白かつた小說です。

(6) あれが私と一共に昨年巴里へ行つた男なのです。

(註) 『共に私が巴里へ行つた』卽ち『私と一共に巴里へ行つた』になります。

(7) 東京は隅田川の兩岸にまたがり、川には澤山橋がかゝつてゐる。

(8) あれが先日お話した男ですよ。

(9) 彼は父が軍人でありますところつ私の友人です。

(註) 『私の友人』を a friend of mine といふのが英語では普通であります。

(10) こゝが私や彼が生れた場所です。

11

(1) 何處へおゐでになりますか。

(註) 『何處へ君は行くしてゐるか』を意譯すると上の答のやうになりませう。

(2) これは何ですか。これは犬です。狐ではありませぬか。いゝえ、そうじやありませぬ。

(註) No, it is not a fox. の a fox が省略されております。

(3) 彼女は誰ですか。彼女はメリーです。彼女は私の姉妹です。

(4) それは長さはどの位ありますか。長さ一千呎あります。

(註) 『如何に長いでそれはあるか』は『それは長さどの位か』に當りませう。

(5) これとあれとではどちらがお好きですか。あれよりこれの方が好きです。

(6) これは誰の猫ですか。メリーの猫です。

(7) 何といふ國に住むでおられますか。英國に住むでおられます。

(註) 『何國の中に』は『何といふ國に』でよいわけであります。

(8) 何で嗅がれます。鼻で嗅ぎます。

(9) あの本箱の中に幾冊本がありますか。

(註) 『何々があゝ』といふとき There is (單數の名詞)、There are (複數の名詞) といふ形を用ひましたが、『何々があるか』と疑問文になりますと Is there (單數の名詞)? Are there (複數の名詞)? となるのであります。

(10) 彼は誰だと思ひますか。

12

(1) 彼は大層上手に暗誦をしましたから誰も彼も皆感服しました。

(註) Every one は『各人』、從つて『誰も彼も皆』となります。

(2) 出掛けたか出掛けぬに降りだした。

(註) 原則として begin to .....は『.....し出す』と譯すものであります。

(3) 汽船が坐礁するや否や彼は海中へ飛び込んだ。

(註) 『.....するかせぬに——』は『.....するや否や——』、『岩の上に走る』とは船の話ならば『坐礁する』と言換へられませう。

(4) 身體も精神も不節制によつて害される。

(5) この旅行で以前の健康を回復したのみならず、その經驗を積むだ。

(6) 彼は支那人ですが、英語はまるで英國人のやうに自然に話します。

(註) 『恰も.....の如く——』は『まるで.....のやうに——』でも同じでありませう。

(7) 彼は知識は勿論經驗もある。

(8) 私は試驗に合格するやうに一生懸命に勉强する。

(9) あなたは英語か佛蘭西語かおやりですか。

(註) Either.....or—— は一個の關聯接續詞でありまして、その打消に用ふるときは多く次の neither.....nor—— を採ります。

(10) いゝえ、英語も佛蘭西語もやりませぬ。

語句集

アラビア數字は例題の番號であります。例へば 5 とあれば、例題の 5 のところに發音と譯が揭げられております。日本數字は練習題の番號であります。例へば一の八とあれば、練習題 1 の 8 番にあります。またローマ數字は最初は編、次は章を示しております。例へば Ⅲ の Ⅷ は第三編、第八章で講義のしてある語句であります。そうして全體 A B C 順で配列して置きました。

A

a	4. 十一の四
about	77
abroad	五の八
address	二の一
admire	十二の一
aeroplane	五の四
again	二の一
all	79. 六の五
allow	123
al.eady	70
am	一の六
an	一の二
ancient	十の四
and	Ⅱ の Ⅰ
another	二の七
any	Ⅲ の Ⅷ
anybody	〃
anyone	〃
anything	〃
anywhere	Ⅲ の Ⅷ
are	一の七, 四の六
as	172
as if	Ⅲ の Ⅸ
as well as	〃
ask	二の七
at	65
autumn	四の二

B

bad	105
baker	85
bank	174
basket	12
bat	〃
be	Ⅲ の Ⅰ
be ab'e to	Ⅲ の Ⅲ
bean	44
beat	21
b come	Ⅲ の Ⅰ
bed	105